

親の眼



一般財団法人 愛知県剣道連盟

創立七十周年に伴い、新しくした連盟旗

目 次

巻頭言 (一財)愛知県剣道連盟 大嶽会長		実業団だより	13
(一財)愛知県剣道連盟設立70周年 祝理事長	2	道場連盟だより	14
東海ブロック骨太講習会を終えて	3	中体連だより	15
大会結果		高体連だより	17
第21回全日本選抜剣道八段優勝大会	4	東海学生剣道連盟だより	18
いちご一会とちぎ国体について	5	愛知県学校剣道連盟だより	19
第54回愛知県春季少年剣道大会	7	地区だより	20
第68回東海四県対抗剣道大会	8	役員	26
第28回東海四県対抗女子剣道大会		おめでとう昇段結果	27
第47回東海四県居合道大会	8	審査料・登録料	32
歴史探訪 尾張柳生新陰流の道統	9	愛知県剣道連盟ホームページ	33
各部門だより		五地区剣道連盟所在地	33
居合道だより	10	編集後記 スタッフ写真	34
杖道だより	11	令和5年度事業計画	35
警察だより	12	資料室所蔵史料紹介	

第47号



一般財団法人

愛知県剣道連盟

巻頭言

一般財団法人愛知県剣道連盟

会長 大嶽 將文

剣道と私



愛知県剣道連盟創立七十周年を迎え、私の剣道の思い出を書いてみたいと思います。

小学・中学校時代（剣道の出会い）

私は昭和二十一年愛知県蒲郡市形原町に生まれました。形原町は昭和二十八年第一回全日本剣道選手権者榊原正先生の出身地でもある。

小学六年の時初めて竹刀を握った。中学に入学すると初めて剣道部を創部することになり、その時の恩師は波多野秀夫先生（全国教職員剣道大会中学の部個人準優勝）であった。先生は形原中学を三年間で愛知県N.O.1にする目標を建てられ、地獄の猛稽古が始まった。普段は一日二回、午前七時から八時までの朝稽古、午後は三時半から五時半までで、土曜日午後七時から九時までと一般の人達との稽古もあった。三年生の対外試合では一度も負けたことがない。

高校時代

中学校を卒業してよいよ高校生活の始まりである。私は高校受験に失敗をしている。当時の県立豊橋商業高校は愛知県下の中でも剣道の強豪校であり、兄も卒業しており進学したい気持ちがあったが、残念ながら学力が今一歩であったため不合格であった。

その時、すべり止めで私立桜丘高校に合格をしていたため進学することとなった。桜丘高校の前身は女子校であり、男子は私が入学する数年前に設立されたばかりで、歴史も浅く剣道の先輩も数名いただけで実質一年生が新チームを結成し大会に出場した。

新チームの五名は、私以外の四名は全員特待生で授業料免除、毎月小遣い千円を頂いており今の時代では考えられないほど優遇されていた。

高校の恩師は匹田勝夫範士で基本稽古を

中心として指導をしていただいた。二年生の頃より東三河の剣道大会で優勝をすることができるようになり、東海予選を勝ち抜いて山口県萩国体にも出場した。三年生の時にはライバル校である東邦高校にいつも決勝で負けていた。高校最後の試合であった東海四県大会で主将として優勝をすることができた。

大学時代

十月には就職も決まっていたが、愛知学院大学から勧誘され匹田先生の強い勧めもあり、昭和四十年四月に愛知学院大学に入学した。

本大学も特待生制度があり、四年間授業料免除の恩恵を受けた。大学の恩師は第六回全日本選手権優勝者の鈴木守治先生である。先生は会社に勤めておられた関係で指導をしていたくのは週一回であった。

鈴木先生は、間合いに明るく、すりあげ技、抜き技、返し技、全てにおいて冴えとスピードがあり正に天才であった。

大学時代の成績は東海地区には強豪の京大大学があり、毎年二位の成績であったが、四年生時、秋の全日本学生優勝大会で関東の名門である慶応大学に勝ったのが一番の思い出である。

四年生の夏に、当時愛知県警の師範をさ

れていた谷鎌吉郎範士に警察に勧誘していただき警察官になることを決めた。

警察時代

昭和四十四年四月に春日井市廻間町にある警察学校に入校した。その時の同期生は名城大学小林幸二、愛知大学置田明で、一学年下に稲吉正道、野崎義昭、崎下匡弘、東日出男、牧野俊雄がいた。

剣道特別訓練員を十四年、助監督二年、監督を六年、その後師範となり平成十九年術科指導室室長を最後に退職した。

教員時代

平成十九年三月に警察を退職後、愛知県教育委員会より特別教育免許を頂き、四月より、蒲郡市にある中高一貫校である海陽中等教育学校に体育の教員として採用された。

この学校は中部地方のトヨタ自動車、J R東海、中部電力などの企業百社が出資して将来の日本を牽引するリーダーを育成する学校であり、一学年百二十名で六年間全寮制のマンモス男子校である。

私は、学校創立二年目からの採用で体育の受け持ちは、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、器械体操、柔道、剣道であった。剣道以外の種目

は初めてでありルールを覚えることが大変であったが、子供たちと一緒に競技をすることは本当に楽しい思い出であった。

体育の教員を三年、非常勤講師として剣道部の指導を八年、計十一年間勤め教員生活を終えた。

愛知県剣道連盟理事長・会長

愛知県は日本の真ん中に位置し、交通網も発達発展し西は沖繩県から北は北海道までこの都道府県からも来県しやすい場所である。

愛知県剣道連盟は多くの全国規模の大会を開催して、古くは昭和四十三年に第一回都道府県選抜剣道選手権大会で愛知県と名古屋の二チームが出場し昭和五十八年の第十六回の間に優勝五回、準優勝四回、三位四回とすばらしい成績を挙げている。その後、全国剣道連盟対抗剣道優勝大会に名称変更された後も三回優勝をしている。

また名古屋鉄道株式会社のご尽力により、初めて昭和五十二年に第一回明治村剣道大会が開催された。この大会は日本を代表する八段の先生方が試し合う日本剣道界最高峰の大会である。その時私は、掲示係員をしていた記憶がある。

最後の大会となった平成十四年第二十六回大会に愛知県代表として出場させていた

だった。

現在、愛知県の行事として毎年三月に春日井市総合体育館開催されている全国高等学校剣道選抜大会が三十二回を数え、四月の全日本選抜剣道八段優勝大会も二十一回を迎えている。

五月と十一月には、七段、六段審査会があり、八月には全日本剣道連盟設立七十年記念行事として八段審査会が名古屋で開催される等、当剣道連盟は全剣連の主催する行事に協力し、多大な貢献をしている。

二月、東京学士会館で行われた審議委員会において全剣連の副会長より感謝の言葉をいただいた。

私は、理事長、会長として八年が経過し途中新型コロナウイルスまん延により行事大会等が中止延期になりましたが、会員の皆様の協力により、様々な制約の中ではありますが、大会、講習会ができております。

愛知県剣道連盟は、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」この剣道の理念を基として、日本の伝統文化である剣道を連盟会員の皆様とともに、正しい剣道の普及発展のために努めていきたいと思えます。

終わりに、愛知県剣道連盟会員の皆様の益々のご健勝を祈念申し上げ巻頭言とします。



一般財団法人愛知県剣道連盟、 設立七十周年を終えて

一般財団法人愛知県剣道連盟

理事長 祝 要 司

剣道、居合道、杖道の会員の皆様、日々当連盟に対しご協力、ご援助、ご支援賜り心より厚くお礼申し上げます。令和四年度は前年度に引き続き新型コロナウイルスの変異型が猛威を振るいました。感染力の強いオミクロン株など収束を見ることが出来ませんでした。その様な中、年間を通し七十周年としての記念事業を行い無事終了することが出来ました。

歴史、伝統を継承され、七十年間の努力により今日の発展した連盟の姿を見ることが出来るのも先人の方々の深甚な剣道・居合道・杖道愛によるものことから感謝を申し上げます。

- 1, 伝統文化としての剣道の正しい普及発展
- 2, 強化・指導者育成・女性剣道の拡大等を通じて愛知県剣道連盟全体の普及とレベルアップを図る
- 3, 一般社会への剣道理解の為の広報活動
- 4, 資産の効率的な運用

この項目を年間の運営重要項目とし、七十周年事業を実施してまいりました。

年度始めに広報委員会により、ホームページの刷新を行い会員の皆様へより分かり易い連盟活動の広報、さらに発刊しております「観の目」の創刊号からの掲載。また試合場へ行けなかつた方への動画による試合結果、講習会の実施等、充実した内容でご覧いただけるようにしました。

次に剣道連盟バッジの刷新に於いてはデザインを会員の皆様からの募集で決定、剣道、居合道、杖道三道の頭文字と其々の武具が挿入されたものにし連盟旗も変更いたしました。剣道連盟手拭も会員募集デザインで決定させて頂きました。

昭和二十七年十二月七日愛知県剣道連盟が設立という事で十二月十一日に、一般財団法人愛知県剣道連盟「設立七十周年記念式典・記念祭」を愛知県武道館に於いて開催、出来るだけ多

くの会員の皆様に参加して頂くこととしました。「記念式典」「記念演武」「記念祭」の三部制で実施。

一部記念式典では、大嶽將文会長挨拶後、物故者法要（黙祷・献花）と当連盟へのご尽力者・各地区連盟へのご尽力者・協力団体・功労賞個人への感謝状贈呈。

二部記念演武では、剣道は西三河剣道連盟の小学生・中学生による「木刀による剣道基本技稽古法」を団体演武として実施、一糸乱れない演武と元氣溢れる掛け声が広い会場を魅了いたしました。居合道に於いては、県代表による「全日本剣道連盟制定居合」の見ごたえある演武披露。杖道では、杖道会員による「全日本剣道連盟制定杖道」の演武披露がありました。

「未来に向かって発展普及のために」をコンセプトとして

三部の記念祭を実施。出来るだけ多くの会員の皆様に参加いただく企画としました。

杖道は、神道夢想流杖術解説で杖・短杖・十手・鎖鎌が有り、実際の実技演武と子供自由参加による内容で実施。居合道では全日本剣道連盟居合解説の後、夢想神伝流・無双直伝英信流・新陰流、其々の多くの会員による演武

を披露、会場いっぱい刀の切込む音が緊張感をもたらしました。

記念祭の最後は剣道八段講師による小中学生への指導稽古、近本 巧八段による礼法・素振りなどの基本指導を実施、特に素振りの内容と重要性を的確に指導、子供たちは感動を受けたことと思います。この指導を受けたことを活かしながら、愛知県の中心的な活動をしていただいております八段十二名の先生方元立ちによる引立て稽古、かかり稽古が行われ、これからの剣道界を担う子供たちとの記念祭に相応しい最後の演武として会場割れんばかりの拍手の中に無事終了することができました。

翌週の十四日、七十周年記念祝賀会を実施。多くの関係者にご参加いただき盛会裏に行うことが出来ましたこともお礼申し上げます。

この七十周年は次に向けた踏み出しの一步です。更なる発展の為、会員全員が同じ方向を向いて一致団結して進む事が大切だと思います。今後の発展の為に各会員の皆様方のさらなるご協力、ご支援お願い申し上げます。最後に七十周年の準備に年間を通して携わって頂きました委員会の皆様方に深く感謝とお礼を申し上げます。会員の皆様様の益々のご健勝をご祈念申し上げます。

●●東海ブロック骨太講習会を終えて●●

愛知県警察
久田松雄一郎

本年も新型コロナウイルス感染症が収束されたと云えない中、全国各地より講師の先生方がお見えになり本講習会を開催していただいた全日本剣道連盟をはじめ、運営にご尽力いただいた方々に対し感謝いたします。

この「骨太」東海ブロック講習会の目的は全国各都道府県の中核として次世代を担う男女青年層の剣士を選抜し、我が国の伝統と文化に培われた高い水準の本質的な地力を備え、剣道を正しく伝承、推奨しうる骨太な剣士を育成することを目的としています。

講習生については高校生から二十七歳以下の男女約四十名。愛知県

久田松雄一郎 警察官
村上 発彦 警察官

山田 将也 会社員
安藤 千真 大学生
中村 謙伸 高校生
早川果沙稀 警察官
開 菜々実 会社員
中村 文美 教員
大嶋友莉亜 大学生
西岡伽弥乃 高校生

の十名で本講習会を受講しました。

講師の先生方は

濱崎 満 先生
古川 和男 先生
東 良美 先生
寺地 種寿 先生

東海ブロック県剣道連盟の先生方

このような素晴らしい環境のもと愛知県において本講習会を受講することができました。

本講習会は二日間にわたって稽古を行いました。骨太と表されるこの講習会、文字通り厳しい稽古でありました。

素振りから始まり切り返し、追い込み、打ち込み、かかり稽古などをメインに行われましたが、一番厳し

く指導をいただいたのは所作・礼法の部分です。

剣道は日本刀の発明を源として戦国時代の武術性、江戸時代の芸術性、幕末以降の競技性など日本の風土のなかでそれぞれの時代における新たな価値を見出しながら現在に至っている芸術文化であります。剣道の歴史的背景を眺めた時に、戦国期から現代まで継承されてきた中でも所作・礼法という部分は重んじられてきました。つまり、武士の心に繋がる部分ではないでしょうか。新陰流の祖である上泉信綱は武芸の場を合戦の場と見立て心の病の克服を図り、機・気を見る心を養成することこそが武士の勤めであると説いたように、武士としての心の部分を重要視して稽古に取り組まなければならないと私個人的には感じています。

要するに、技術を修得する過程は「人間づくり」であるということです。近年では勝利至上主義的な傾向が強くなっていますが、本来の剣道は剣の理法の修練による人間形成の道を求めるものでなくてはなりません。そして、その先に気剣体一致の一本があると思います。所作、礼法を意

識し、初めの礼から終わりの礼、また座り方から立ち方など様々な所作、礼法が、正しいものとなる道場内の雰囲気も締まっています。そして相手に対し感謝の気持ちや稽古ができる喜びを感じることもできれば、心の部分が充実していくと思います。

私も今回の講習会では教えのとおりに、そのような意識を持って取り組み、そのような意識を持って取り組み、素振りからかかり稽古まで全ての打突が正しい姿勢、形、打突となり実りある稽古になってきました。

目先の勝負だけに囚われてしまっ

ては剣道の本質の部分を見失ってしまいます。剣道の本質を理解し、正しく剣道を学び、技術を修得していくことが重要であると私はこの講習会を通じて改めて実感することができました。

終わりにコロナ禍に遥々愛知県までお越しいただき指導していただいた先生方をはじめ、運営にご尽力いただいた全日本剣道連盟、愛知県剣道連盟の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

第二十二回全日本選抜剣道八段優勝大会

開催日 令和五年四月十六日(日)
会場 名古屋市中区
枇杷島スポーツセンター

この大会の前身は、昭和五十二年より二十六年間に亘り明治村剣道大会として明治村の『無声堂』で開催されていた剣道八段戦です。平成十四年より公益財団法人全日本剣道連盟が継承され通算で四十五回目となる大会です。全国より選抜された三十二名の八段の先生方の格調ある大会であります。

愛知県からは、昨年同様穂園元孝先生、北村真一先生が出場、善戦されました。

大会前日には、新型コロナウイルス感染症が収束されるまでの暫定的な試合・審判法運用の解説があり、愛知県所属の七段の先生方のご協力



穂園先生 (右側)



北村先生 (右側)



本番さながらの模擬試合



模擬試合にご協力頂いた七段の先生方



内閣総理大臣杯 (中央上部)、愛知県剣道連盟寄贈の七宝焼き兜 (左側下部)

試合結果

- 優勝 栄花 直輝 (北海道)
- 二位 愛甲 和彦 (大阪府)
- 三位 栄花 英幸 (北海道)
- 三位 寺地賢二郎 (東京都)

を得て模擬試合が実施されました。今回は、特に「つば(鏝)競り合い」解消に至る時間「一呼吸(目安としておよそ3秒)」の解説が中心にありました。大会当日は、祝理事長、伊藤事務局長より大会運営にあたり諸注意事項の説明があり、各担当の任務に就きました。各御担当の皆様のお陰で大きな混乱もなく、スムーズな運営ができましたことにこの場をお借り致し感謝申し上げます。

大会当日の様子



いちご一会とちぎ国体について

かぬ正々堂々の
内容であった。
成年男子 こ



総監督 東 一 良

令和四年十月三日(月)から五日(水)の三日間、栃木県宇都宮市のユウケイ武道館で「いちご一会とちぎ国体」が開催された。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で三年ぶりの国体である。監督、選手は二週間前から体温のチェックはもとより、PCR検査、大会前には抗原検査を二回提出する等、万全を期して大会に臨んだ。

試合前日全剣連審判担当の先生から暫定的な試合審判法について説明があり感染対策をしっかりと実施された。

少年男子 各地区予選を勝ち抜いた十六チームによるトーナメント試合で一回戦青森と対戦。

お互いの持ち味を出し素晴らしい技の応酬となり対一の大将戦になり大将の中村が緊張感のある試合展開の中で見事に面を決め二回戦に進出。

二回戦地元栃木である。
○対四の大差で敗れたが、一歩も引



いちご一会とちぎ国体 剣道競技会 令和四年十月三日～五日 会場 ユウケイ武道館 (栃木県宇都宮市)

れまた地元栃木である。
○対五の大差であり、惜しい技もあつたが有効打突にならなかつた。栃木の選手の技に冴えがありこれは、長年の強化で培った厳しい稽古の賜物であると思う。

成年女子 各地区予選を勝ち抜いた十六チームによるトーナメント試合一回戦岡山と対戦。一対一の代表戦。先鋒、両者お互いに攻め合いも有効打突なく引き分け。

中堅、技の切れがあり見事な二本勝ち。大将、二本負けして代表戦となる。代表戦は引き分けた先鋒同士の対戦であり、一瞬の隙を捉え面を決め二回戦に進出。

二回戦、愛媛
二対〇で勝ち。先鋒、引き分け。中堅、持ち味を発揮して面を決める。大将、上段からの豪快な面を二本決め準決勝に駒を進める。

準決勝、大阪。
一対二で敗れる。先鋒、真向勝負の中、惜しくも一本負け。中堅、実力の差を感じさせる見事な二本勝ち。大将戦に持ち込むも小手を打たれる。敗れはしたが一歩も引かぬ姿勢は見事であった。
三位決定戦神奈川。

○対一で敗れる。先鋒、互角の攻防の後惜しくも一本負け。中堅、両者思い切りのある技の応酬一本一本引き分け。大将、お互い決定打ないまま引き分け。試合内容は、紙一重の接戦だったと思う。残念な思いをしたが、四位に入賞し、平成十六年の国体以来の成績を残す事ができた。

優勝は地元栃木であり、国体はだいたい地元が優勝している。地元の選手は時間をかけて三年〜四年ぐらい前から強化をしている訳であり、考えて打つのではなく自然と技が出ている。これ

は一生懸命に稽古しているからだと思つた。まさに稽古に神変(しんぺん)あります。終わりに、全力を出し切つた選手の皆さんに心よりお礼を申し上げますと共に熱心にご指導して頂いた強化委員の先生はじめ愛知県剣道連盟に対し感謝を申し上げます。

総監督 東 一 良

少年男子監督 野村卓也

- 大将 中村 謙伸(星城)
- 副将 関屋 優作(星城)
- 中堅 大前 龍海(桜丘)
- 次鋒 林 芳伸(星城)
- 先鋒 辻 知己(星城)
- 補欠 上山 剛史(星城)

成年男子

- 大将 倉成 健治(県警)
- 副将 関屋 猛久(東レ)
- 中堅 日置 康紀(県警)
- 次鋒 権丈 文生(県警)
- 先鋒 館井 秀太(県警)

成年女子

- 大将 高橋 里実(主婦)
- 中堅 迫 美樹(県警)
- 先鋒 片山果沙稀(県警)

少年男子



少年男子監督
野村 卓也



令和四年十月三日(ユウケイ武道館)

令和四年八月二十一日に行われた第四十三回東海ブロック大会において、少年の部男子が優勝し、本国体へ出場することができました。また、第七十七回(いちご一会とちぎ)国体では第五位入賞という素晴らしい成績を収めてくれました。これも、愛知県剣道連盟、愛知県高校体育連盟、また選

手に関係するすべての先生方のおかげです。誠にありがとうございます。

このチームは星城高校五名と桜丘高校一名の選抜チームであり東海ブロック大会の前哨戦にあたる東海総体では星城高校が団体優勝、個人でも決勝戦で中村選手(星城)と大前選手(桜丘)が優勝を争うという大変力を持った選手たちでした。大会前の強化練習や京都遠征などを経て、確かな手ごたえを感じつつ、「よし、いける」という気持ちと「勝たなければ」という気持ちを感じながら、東海ブロック大会を迎えました。

東海ブロック大会は完全決着制の為、引き分けはありません。迎えた静岡県との初戦。勝たなければとの気持ち



栃木団体 少年男子集合写真

ちからか動きが硬く、先鋒から中堅を取られ、副将と大将は勝利したものの勝負が決してしまいました。ウォーミングアップでは動きや気持ちは十分 올라가っていたのですが、初戦の入り方の難しさを改めて痛感しました。東海ブロック大会では多くの場合、三戦全勝で優勝し本国体への出場が決まります。残された道は勝数でならんだ場合に、勝者数を上回るしかありません。選手にも動揺はあったと思いますが、

「結果が転がってくることはない、自分たちで掴みにいくしかない」と伝え、強化部長の上山先生、コーチの宮地先生とともに誰もいないサブアリーナに移動し、一縷の望みに賭け、もう一度ウォーミングアップを愛知県だけで行いました。チームが勝つことはもちろんですが、残り二戦で三勝二敗の勝利では追いつけない為、五人全勝、最低でも四勝一敗の勝利が必要でした。続く三重県との対戦では五人全勝、さらに岐阜県との対戦でも四勝一敗と選手は実力を発揮してくれました。愛知県は最終戦の静岡県と三重県の試合を残し先に全試合を終えました。勝者数では大きく上回ったものの、この時点では静岡県が二戦全勝で優勢にありました。最終戦では大将までもつれ込む展開の末、三重県が勝利しました。愛知県と静岡県は二勝同士でならば勝者数の差で愛知県が優勝することができました。大会後、大嶽先生や祝先生、平



井先生など愛知県剣道連盟の先生方から「おめでとう、自分たちが掴みにいった勝利だった」と労いのお言葉を頂き、嬉しい気持ちとともに安堵したことを今でも鮮明に覚えています。

本国体出場が決まり、開催県の栃木県をはじめ岡山県や石川県の本国体チームと練習試合を行わせて頂くなど多くの方々にご尽力いただきました。

栃木県で開催された本国体では、一回戦で青森県と対戦し、選手は我慢強い剣道で大将まで繋ぎ、見事に逆転勝



利を収めてくれました。二回戦では開催県の栃木県に敗れましたが、大舞台で真つ向からぶつかり合えたことは選手にとつてとても良い経験ができたと思います。



世界的な新型コロナウイルス感染症拡大により、前回大会の茨城国体（令和元年）とは大きく状況は異なり、令和二年鹿児島国体の延期、令和三年の三重国体の中止があり三年ぶりの国体開催となりました。茨城国体では男女での出場、女子が第五位入賞と素晴らしい成績を残すことができました。そして、二大会連続での本国体出場、第五位入賞は愛知県としても誇らしい成績となったと思います。この勢いをさらに加速させて令和五年度国体出場を目指し、「日本一」を目指して、愛知県の高校生のために頑張りたいと思います。

第五十四回 愛知県春季少年剣道大会

開催日 令和五年三月十九日（日）
会場 中村スポーツセンター

試合結果

小学生

- 優勝 愛心館（西尾市）
- 二位 修徳館（東海市）
- 三位 久田剣道場（名古屋市中区）
- 三位 愛知矢田道場（西尾市）

中学男子

- 優勝 西尾中学校（西尾市）
- 二位 富田中学校（名古屋市中区）
- 三位 八王子中学校（名古屋市中区）
- 三位 西尾東部中学校（西尾市）

中学女子

- 優勝 平坂中学校（西尾市）
- 二位 尾張旭東中学校（尾張旭市）
- 三位 豊川西部中学校（豊川市）
- 三位 西尾中学校（西尾市）



小学生 優勝 愛心館



中学生男子 優勝 西尾中学校



中学生女子 優勝 平坂中学校

第六十八回 東海四県対抗剣道大会 第二十八回 東海四県対抗女子剣道大会



監督
北村 真一

令和五年三月五日静岡県立武道館において新型コロナウイルス感染症の影響により中止になっていた第六十八回東海四県対抗剣道大会第二十八回東海四県対抗女子剣道大会が四年ぶりに開催され愛知県が見事に男女共に優勝することができました。

女子団体戦は、結果的に圧勝となりましたが一戦一戦息の詰まる試合の連続でした。次鋒早川選手が三戦全勝と大活躍この勝利をチームで守り最終試合まで相手チームに一本も与えず優勝することができました。

男子団体戦は、初戦岐阜県、続く三重県と大将戦にもつれ込む接戦となりましたが見事大将勝野選手が大将戦を制し勝利することができ三戦目の静岡県では、チームに勢いがつき圧勝し三戦全勝で優勝することができました。

強化委員長をはじめ強化委員の先生方と令和五年になり強化選手を指名し

厳しい強化訓練を実施してきたことが優勝に繋がったと感じています。今回出場していない他の強化選手や、それぞれ各所属において選手が自覚を持ち稽古に励んできた成果と思います。チーム愛知として今年初めての試合を良い形でスタートすることができ、これからの都道府県対抗、国体と引き続き剣道連盟のバックアップ、強化委員の先生方と本年度各大会で好成績を収めるため精進していきたいと思えます。



東海四県対抗剣道大会

第四十七回 東海四県居合道大会



大会監督
東海四県居合道
長谷川 善久

令和五年三月五日(日)、第四十七回東海四県居合道大会が、静岡県武道館(藤枝市)で開催された。

愛知県代表チームは、昨年十月十五日に予選会で選出された平均年齢31.4才の若武者の布陣。初陣は七名であった。

愛知県剣道連盟居合道部の行事(合同稽古会、七十周年記念式典、高段者居合道講習会終了後、稽古納め、居合道審査会終了後、稽古始め)を全て活用して強化稽古を行った。

『凡事徹底』基本稽古と礼法所作については、妥協せずに徹底し『知ってるつもり、やってるつもり』を排除し、選手達は互いにチェックしあう姿が見られた。

大会直前二月には、杉山盡心館道場をお借りして、最終調整を行ない入場から演武、退場、選手の交代、整列等の動きを確認し、選手間の信頼感とチームワークを、醸成した。

大会前日には、今川義元との桶狭間の戦いの故事に倣い、監督長谷川が熱

田神宮へ必勝祈願、出陣には、選手・監督・審判員全員スーツには七十周年記念バッヂを胸に愛知県代表の自覚で出陣した。

大会当日は、選手達は落ち着いた中にも気迫充実した隙のない正確な演武で他県を圧倒し、抜群のチームワークで優勝した。

東海四県大会は、剣道男子、剣道女子、居合道の三部門完全優勝して七十周年に華を添えた。

半年に及ぶ強化稽古に真摯に向き合い基本を積み重ね、栄光を勝ち取った選手達に敬意を表し、ご支援ご協力の関係各位に感謝申し上げます。

『勝って兜の緒を締めよ』

愛知県剣道連盟八十周年に向け、十連覇されることを祈念します。



歴史探訪 8

尾張柳生新陰流の道統

今回の歴史探訪は「尾張柳生新陰流道統」です。

「新陰流兵法」は、室町時代にさかのぼる剣術の流派で流祖上泉伊勢守藤原秀綱(のち信綱)により創始された。流祖に師事した柳生但馬守石舟斎宗厳が「無刀の位」を築き二世を承継し柳生の礎を築いたことは、皆様ご承知のことと存じ上げます。

尾張柳生は、その嫡孫である柳生兵庫助利厳(1579～1650)が尾張徳川家初代の徳川義直公に剣術師範として招かれ兵法師範となり尾張柳生家の始祖となり、利厳の教えを受けた義直公をはじめとする七人の尾張藩主と十四人の尾張柳生家の当主によって現在の第二十二世宗家柳生耕一厳信まで柳生新陰兵法が継承されております。

新陰流宗家の肩書には「世」と「代」の二つついてます。他性の相承の仁が印可相伝した者を「世」といい、嫡流(血統)の一子相伝を「代」といいます。つまり徳川家など柳生の血統でない人物が当主となった場合は、「世」のみで柳生家が継いだ場合は、「世」の当主第二十二世柳生耕一厳信は、第十六代でもあります。

石舟斎宗厳は「兵法(剣術)」は単なる

剣術に非ず」ということを軸に、柳生家憲の中で「一文は無文の師、他流かつべきにあらず、昨日の我に今日は勝つべし」と述べております。自分の知らないことは、知っている人から謙虚に学び他流と勝負を争わず、ひたすら自分自身の向上に日々努めることなど心法にも注力していたようです。

全日本剣道連盟が平成十九年に制定した剣道指導の心構えがふと思いつきました。

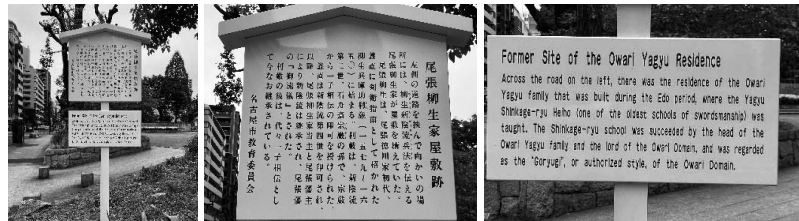
剣道の正しい伝承発展のためになすべきこと、心豊かな人間形成のために礼法を重んじること、豊かな生命感を育み、文化としての剣道を実践していき生涯剣道を目指すべきこと。背筋がピンと伸びた瞬間でした。

そこで、今回「尾張柳生家屋敷跡」を訪ねてみました。名古屋観光ホテル正面玄関を出て錦通を挟んだ反対側に下園公園があります。この公園の南西角に「尾張柳生家屋敷跡」標札が設置されております。

下園公園には、ケヤキ、ムクノキ、クスノキなどの大木が堂々と植わり、池、水車、休憩所、散策路、子供の遊具、小グラウンドなどがあります。ちょうど、お昼過ぎに尋ねましたが、小さい子供を連れた親子、体操に取り組んでいる高齢者のグループ、休憩しているサラリーマンなど都会のビルの中のオアシス的な公園でした。

この公園が尾張柳生家の屋敷跡では

なく公園の道路を挟んだ西隣が屋敷跡です。現在は、高層ビルが建てられており、屋敷跡の欠片もありませんでした。



表札



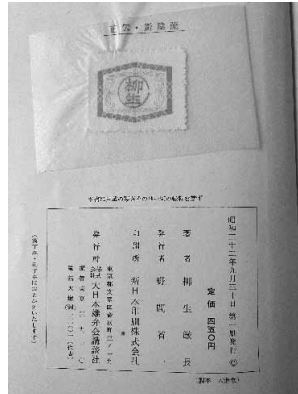
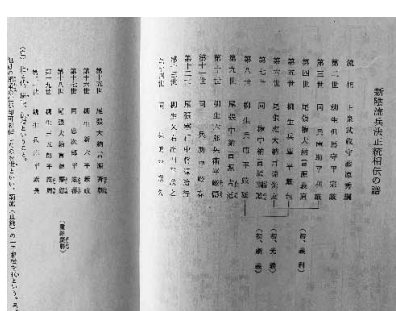
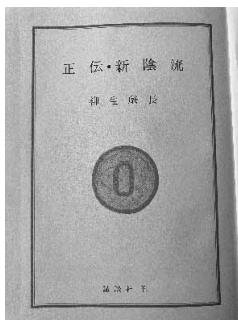
下園公園のようす(当時緑豊かな自然の中に柳生屋敷があったと推測される)

講談社発刊「正伝・新陰流」著者柳生新陰流兵法宗家第二十世柳生厳長の資料ですが、本委員会の榎本委員が所有されておりましたので一部写真撮影し掲載します。

学生時代に第二十一世宗家柳生延春厳道(第十五代尾張柳生家当主)先生に柳生新陰流の「三学円乃太刀、相雷刀八勢」などの基本をご指導受けまし

た。当時は、興味もなくなるとなく過ぎましたが、今に思えば大変貴重な時間だったのに残念な時間を過ごしてしまつたと後悔しております。

改めてこの柳生新陰流をもっと奥深く学び直す機会を頂き、感謝いたします。(文責 広報委員 森園昭俊)



講談社発刊「正伝・新陰流」(著者柳生新陰流兵法宗家第二十世柳生厳長)より抜粋

居合道だより

令和四年度の名古屋地区の
居合道活動状況居合道委員
瀧 順 一

コロナの感染も始まってから三年目に入り、令和四年初めあたりから順次三回目のワクチン接種も開始され、当初はすべて中止となっていた各行事もしだいに感染状況を見ながら実施される方向に動いていました。このような状況の中で、居合道の活動とコロナ感染拡大防止の両立が最も心配される点でした。

居合道の練習方法の特性として発声を行わず、対面せずに一人で行い、ある程度の経験を経ると真剣を用いるので、演武者同士が接近する事が少なく「密集」「密接」などの感染を拡大する幾つかの要因が自然に回避されています。

一方で、剣道をされる方に比べて平均年齢が高く感染した場合の重症化リスクが高くなります。

各施設の利用についても感染拡大防止の点から種々の規制があり、名古屋地区で活動している居合道の各団体も練習場所の確保に苦勞している様子が感じられました。

今まで使っていた施設が全く使えなくなったりとか、使う事は可能となったが感染防止の観点から空調を使っても窓を完全に閉じることが出来ず、近年の厳しい気候環境により快適な中での練習も難しかったと思います。

その様な状況の中で、名古屋地区の行事として近藤勁助先生、中部電力剣道部の方々のお力添えを頂きながら、東桜会館で年一回二回の講習会を長く続けてきましたが、残念ながら昨年度も行うことができませんでした。

愛知県剣道連盟主催の高段位受審者講習会や毎月最終土曜日の午後に行っている居合道合同稽古は幸い名古屋市スポーツセンターで行われる事が多く名古屋地区の方々には参加しやすかったと思います。

昨年度に行われた愛知県剣道連盟の行事で最も印象に残ったのが創立七十年記念行事です。観客では無く、なるべく多くの人に参加していただく「参加型」のイベントにしたいとの実行委員会の意向で、夏頃から具体的に参加していただける人の把握を行ったり、どの様な内容にするか等、手探り

を進める中でしだいに具体的になってきました。

午前の式典内での演武、午後からの居合道部門が担当する各種の演武等五地区からの参加者合計で百五十五名名古屋地区からは四十名程の参加をいただく事ができました。内容も全剣連居合、愛知県内で行われている各古流居合演武等、観られた剣道関係の先生方からも好評であったと聞いております。当日朝に各地区の居合道関係者が協力して、手際よく会場準備が出来、この点は大変良かったと思います。

また、名古屋市剣道連盟の剣道指導者講習会の中で行っていた全剣連居合の講習が感染拡大以来中断していましたが、二月に行われた指導者講習会から再開させていただける様になりました。

古流に関しては名古屋地区では新陰流、無双直伝英信流、その他数流派が各団体の努力で場所を確保しながら練習をつづけています。入門希望の方が有りましたら愛知県剣道連盟事務局へ連絡いただければ取り次いでいただけます。

名古屋市剣道連盟の役員の先生方には平素より居合道にご理解とご支援を賜り篤くお礼申し上げます。

今後しだいに感染状況も落ち着き、安心して行事・練習に取組めるよう

なると思いますが、とにかく感染が起ころ以前の状況に早く戻れるよう願っております。



杖道だより

令和四年度杖道の活動

令和四年度杖道委員長
前田 新吾

令和四年八月二十六日和歌山市で開催された杖道七・六段審査会において、愛知から七段に小崎順一さん、六段に戸谷高さんが合格いたしました。全国審査に合格者が出たことは久しぶりで、しかも七・六段同時に出たことは誠に喜ばしい限りです。七段合格の小崎さんは七十三歳ですが、元氣澆刺としておられ、後進の指導に一層ご尽力頂けるものと期待しております。又、戸谷さんは三十八歳と杖道関係者の中では若い方で、今後愛知のみならず全国的にも杖道界を牽引して頂けるものと、活躍を期待しております。

県内の審査に目を向けますと、令和五年二月十九日(日)天白スポーツセンターにおいて杖道審査会が行われました。一級から五段まで三十四名の方が受審されました。過去の受審者数をみてみますと、令和二年四十三名、三年三十五名、四年三十八名となっております。

ります。新型コロナウイルスの影響があるのか分かりませんが、受審者数は減ってきています。その中で、ここ数年、剣道・居合道の経験者の方が杖道にも関心を持たれ、稽古に参加頂き、杖道人口減少を最小限に留められているような状況かと感じております。杖道において杖は杖であり、打太刀が師の位です。先日の東京江戸川での杖道中央・地方講習会で、黒郷全剣連杖道委員長が八・七段講習生に対する講話の中で、「杖は太刀によって育てられる」というお話しをされました。剣道・居合道経験者の皆様のご参加は杖道進展に寄与されるものと大歓迎です。勿論、全く経験のない方の参加も大歓迎するところです。



杖道合同稽古会

杖は単なる丸い木のままとりあえずは出来ず。老若男女どなたでも出来ます。先の和歌山での審査会では、六段に九十歳の方が合格されました。その方は江戸川の講習会にも来ておられました。杖を両方の手の内で、肩甲骨を使って操作すれば、身体にも良いと思われず。皆様の参加をお待ちしています。

令和四年度の一大事業として「愛知県剣道連盟設立七十周年記念式典・記念祭」があります。記念演武として会員四十四名による全日本剣道連盟杖道いわゆる制定形の集団演武、そして、記念式典において杖の基本技、及び、神道夢想流杖術の併伝武術である短杖術、十手術、鎖鎌術の演武を行いました。

四十四名による制定形の集団演武を行いました。これには、剣道・居合道の経験者の方のご協力によってこれだけの人数で演武をすることができました。

全剣連制定形杖道は主に神道夢想流杖術から構成されています。神道夢想流杖術は今から四百年程前に夢想権之助勝吉によって創始されました。夢想権之助は神道流の奥義を究め、多くの剣客と試合をして一度も敗れたことがありませんでしたが、ある時宮本武蔵と試合して敗れたため、筑前国、現在の福岡県ですが、その大宰府の鬼門を守る宝満山竈門神社に参籠祈願して

「丸木をもって水月を知れ」とのご神託を授かり開眼、杖術を編み出したものと伝えられています。

この竈門神社はアニメ『鬼滅の刃』のファンの人たちから、主人公「竈門炭治郎」ゆかりの地として最近多くの方の参詣を集めているようです。この竈門神社には末社として夢想権之助神社が建てられ、境内で杖道や各種武術の奉納演武が行われています。

神道夢想流杖術はその後、福岡藩黒田家の藩外不出「御留の武術」として伝えられてきましたが、神道夢想流杖術では古流の稽古が進みますと、併せて剣術、短杖術等の稽古もいたします。その中から、短杖術、十手術、鎖鎌術を記念事業で演武いたしました。

杖道は手軽に始められます。でも奥は深いです。皆様も是非一度四尺二寸一分(128cm)の杖を手にとってみてください。



警察だより



愛知県警
中村 隆信

二年七か月ぶり、第六十四回 愛知県警察剣道大会開催！

令和四年九月九日（金）、第六十四回愛知県警察剣道大会が名古屋港区の愛知県武道館で開催されました。本大会も新型コロナウイルス感染症の猛威、拡大により中止を余儀なくされ令和二年二月以来の開催となりました。



今回は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、無観客、出場選手制限、大会規模縮小の中、選手は所属の期待と名譽のために警察署の部、本部・執行隊の部、及び女性警察官個人の部に分かれて、白熱した試合が展開されました。試合結果は次のとおりです。

○警察署の部

- A組 優勝 一宮警察署
二位 安城警察署
三位 南警察署
- B組 優勝 西枇杷島警察署
二位 津島警察署
三位 江南警察署
- C組 優勝 蒲郡警察署
二位 蟹江警察署
三位 中部空港警察署



○本部・執行隊の部

- 優勝 警察学校
- 二位 機動隊
- 三位 自動車警ら隊



○女性警察官個人戦

- 優勝 片山果沙稀（一宮警察署）
- 二位 佐久間悠実（港警察署）
- 三位 池田あゆみ（警察部）



実業団だより



中部地区実業団剣道連盟
事務局長
神谷 光頭

今日私たちを取り巻く環境は、新型コロナウイルスのパンデミックのみならず、為替の変動、各地での戦争や紛争、そしてこれに伴う原材料の高騰など様々な影響を受け、まさに激動の中にあるといえます。また、気候変動や生態系崩壊の危機といった地球環境問題が深刻化していることに加え、新型コロナウイルス感染拡大は世界的規模で経済・社会に構造的な影響をもたらし、ロシアによるウクライナ侵略は、世界平和と安全保障に大きな脅威を与えています。いずれの問題も食料やエネルギーをはじめとした連鎖的な危機を誘引しており、とりわけ社会の最も弱い人々に打撃を与え、経済的な格差を拡大させています。

これらを機に思い知らされたのが「日常の大切さ」ではないでしょうか。各企業においては、予見できない複

合的な危機を乗り越えるため、持続可能な社会の実現に向けて積極的なSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みが始まっています。

かつての「日常」は新型コロナウイルスの世界的流行を機に、「新しい生活様式」の実践を余儀なくされ、日常生活は大きく変わっています。近年では、情報社会に続く新たな社会として、創造社会へと進んでおり、今まさに大きな転換期を迎えています。

若い世代に限らず、価値観の変化、暮らし方や働き方の変化が想像を超えて急速かつ広範に進み、さらに我が国では、世界に先駆けて「少子高齢化」が様々な分野において大きな課題となつていきます。

我々実業団剣道においても、この予見できない複合的な危機に直面し、剣道人口の減少が進み、持続可能性の確保と強靱性の確保が大きな課題となっています。

これに対応するため、令和四年度では、連盟規約の大幅な改正、組織改革を行いました。

連盟規約は、昭和四十二年の発足時から、数回の改定が行われてきましたが、規約内容のほとんどは五十年以上前の原文のまま改定されておらず、規約内容と組織運営の実情には矛盾が生

じておりました。また、会員数の減少や大会規模の縮小、若手の剣道離れが顕著化し、継続的な連盟発展を見据えた規約改定と現在を取り巻く環境に合わせた組織改編が急務となり、全面的に規約を刷新しました。

これに伴い、一極型の連盟運営を脱却し、広く会員各社の意見を取り入れ、組織の強靱化を図るため、組織改編を行いました。

新体制では、【名誉会長】渡並 直、【会長】祝 要司、【理事長】森園 昭俊を中心に、正会員の加盟団体より参与十二名と理事十四名、監事一名を選出し、事務局長一名のほか、支部長を四名おき、新たな組織を編成しました。

また、新しい取り組みとして、剣道指導者の育成、審判員の育成、大会活性化等を目的として、弊連盟の高段者名簿（六段以上）を作成しました。年齢とともに現役を離れ、実業団から地元道場へ活動の場を移す傾向がありますが、名簿を作成してみると、六段以上の在勤者（連盟会員）が非常に多いことに驚かされました。

実業人剣道に限らず、多くの剣道家は剣道の鍛錬を続けることに様々な制約や苦勞があると思います。しかし、逆境を理由に剣道から遠ざかるのではなく、創意工夫のもと生涯剣道の実現

を目指し、これまでに確立された体系的な組織に加え、創造的な体質の組織づくりによって、実業団剣道の活性化と共に地域剣道への貢献にも繋げていきたいと考えております。

○令和四年度大会結果報告

【第五十六回中部地区実業団剣道大会】
〔優勝〕

大同特殊鋼本社
〔第二位〕

NTP名古屋トヨペット
〔第三位〕

生川倉庫
日本耐酸塩工業

【第三十五回中部地区実業団女子剣道大会】
〔優勝〕

NTP名古屋トヨペット
〔第二位〕

NTP名古屋トヨペット西尾張
〔第三位〕

大同特殊鋼 星崎
トヨタ自動車

【第三十九回中部地区実業団剣道段別選手権大会】

*六・七段の部
〔優勝〕

井上 隼（生川倉庫）
〔第二位〕

菊池 雅樹 (豊田自動織機)

〔第三位〕

寺井 健 (住友電装)

鈴木隆太 (J R 東海)

*五段の部

〔優勝〕

野地本 溪

(NTP名古屋トヨペット)

〔第二位〕

服部 大輝 (N T T 西日本)

〔第三位〕

熊代 拓人 (トヨタ自動車)

井上 晶太

(NTP名古屋トヨペット)

*四段の部

〔優勝〕

神野 大輔 (大同特殊鋼)

〔第二位〕

瀬尾 洸太郎 (大同特殊鋼)

〔第三位〕

鈴木 悠平 (サンエイ)

茅根 颯人 (大同特殊鋼)

*三段の部

〔優勝〕

大塚 匡倫 (J R 東海)

〔第二位〕

水野 颯大 (東レ愛知)

〔第三位〕

馬場 誠也 (サンエイ)

矢野 聖也 (豊田合成)

*二段以下の部

〔優勝〕

奥野 詢也 (大同特殊鋼)

〔第二位〕

福田 真人 (パナソニック)

〔第三位〕

多賀谷 正利 (中部電力)

【第52回中部地区実業団剣道女子選手権大会】

〔優勝〕

竹村 奈緒美 (パローHD)

〔第二位〕

首藤 瑞希

(NTP名古屋トヨペット)

〔第三位〕

平山ひなた (トヨタ自動車)

小村向日葵 (大同特殊鋼)

〔第二十四回全日本実業団女子剣道大会〕

敢闘賞 (ベスト8)

パナソニックデバイス SUNX(B)

【第五十六回中部地区実業団剣道大会】



〔優勝〕 大同特殊鋼 本社

【第三十五回中部地区実業団女子剣道大会】



〔優勝〕 NTP名古屋トヨペット

道場連盟だより

令和四年度の愛知県剣道道場連盟の行事は何とか開催することができました。

道連主催の研修会、日本武道館の予選から本大会、また今年度は、全国道場対抗剣道大会が愛知県の開催となり大変忙しい一年となりました。

全国大会結果は次のとおりです。

●第四十六回全国道場少年剣道選手権大会

日付 令和四年十月十六日

小学生の部 (パークアリーナ小牧)

第三位 加藤彩祐 (江南武道館)



●第五十六回全国道場少年剣道大会
日付 令和四年七月二十八日
小学生の部 (日本武道館)

第三位 洗心道場
先鋒 大洞雄志、中堅 江口大晴
大将 森本一颯



●第三十八回全国道場対抗剣道大会
日付 令和四年十月十六日

優勝 洗心道場

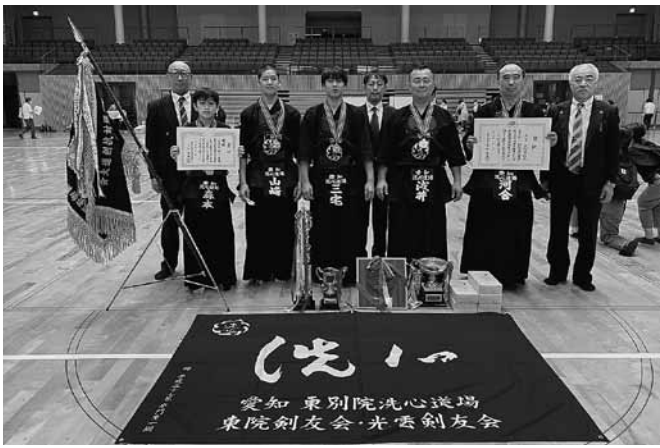
令和四年十月十六日に開催されました選手構成は、先鋒は小学生・次鋒は中学生・中堅は高校生以上二十九歳以

下・副将は三十歳以上・大将は四十歳以上です。

中堅は洗心OBの大学生、副将もOBで指導者、大将はOBで教員、すべて洗心道場で中学三年生まで修行した選手で大会に挑みました。

一回戦から大将戦になり厳しい試合が続きましたが、チームワーク良く6試合を勝ち抜き優勝することが出来ました。

監督 近藤久一
先鋒 森本一颯、次鋒 山崎洗太郎、
中堅 三宅涼介、副将 浅井誠一郎、
大将 河合貞志



文部科学大臣杯

●第六十四回全国選抜少年剣道錬成大会
日付 令和五年三月二十六日
優勝 洗心道場



令和五年三月二十六日茨城県水戸市にて三百四十一チーム出場で開催されました大会に洗心道場が三度目の日本一に輝きました。

先鋒 塚本向陽(五年生)、次鋒 江口大晴(五年生)、中堅 大洞雄志(五年生)、副将 深町焯成(五年生)、大将 森本一颯(六年生)の五年生四人、六年生一人で優勝まで八試合を勝ち抜きました。一本差や大将で逆転など僅差で鎧を削る試合ばかりでした。コロナの影響で四年ぶりの開催に大変盛り上がり、年度最後の大会として良い思い出となりました。

中体連だより

「中学生剣士の活躍」



愛知県中小体連
剣道専門委員長
佐藤 祐広

令和四年度の中体連の活動は、少しずつコロナ禍以前のように戻ってきました。もちろん、感染症対策を講じながらですが、練習試合が再開されたり、それぞれの地域で大会が開催されたりと、中学生剣士が、一生懸命になって剣を磨く姿を見る機会が増えてきたことに、私自身喜びを感じています。

七月は、愛知県中学校総合体育大会剣道競技大会が、春日井市で開催されました。男子個人決勝戦は、重富朝陽選手(矢作中)と板津悠斗選手(犬山東部中)が対戦。板津選手が積極的に技を出していくのに対し、重富選手は足を使ってそれをさばき、機を見て鋭いメンを決め、優勝。女子個人決勝戦は、小林心乃選手(植田中)と山本実和選手(志段味中)が対戦。小林選手は、山本選手の攻めを丁寧に攻め返し、一瞬の崩れを逃さず、メンを決めて優勝。



個人二連覇。男子団体決勝戦は、岡崎市立矢作中学校が西尾市立西尾中学校と対戦。先鋒、次鋒と西尾中が連取しましたが、副将、大将で矢作中が返して代表戦になりました。代表戦は、重富選手（矢作中）がメンを決めて大逆転で優勝しました。女子団体決勝戦は、西尾市立平坂中学校と幸田町立北部中

学校が対戦。平坂中は落ち着いた攻めで相手を崩していき、安定した試合運びで優勝。五連覇を成し遂げました。八月、東海中学校総合体育大会剣道競技大会が、春日井市で開催されました。団体戦は、男子西尾市立鶴城中学校、女子西尾市立平坂中学校がともに二位。個人戦は、男子、山崎洸太郎選

手（富士中）が三位。女子、小林心乃選手（植田中）が二

位、榊野愛花選手（平坂中）が三位と、それぞれの部門で入賞することができました。

同じく八月、全国中学校総合体育大会剣道競技大会が北海道釧路市で開催されました。特に女子個人戦の結果が際立ちました。小林心乃選手（植田中）が、強気の攻めと粘り強さで勝ち上がり、決勝へ進出。佐藤選手（新潟県）と対戦しました。延長三回目、両者メロンに跳ぶと、審判の旗が割れて、佐藤選手に二本上がりしました。小林選手は

惜しくも準優勝でした。しかし、その堂々とした試合は、愛知県代表選手としてたいへん立派で誇らしいものでした。

九月、第十七回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会が、大阪府で開催され、愛知県の代表選手が活躍しました。大会へ向けて、県総体以後、強化練習会と遠征を重ねることで、選手の技術力向上と仲間同士の親睦を深めることができました。

た。それにより、自信をもって大会に臨むことができました。予選リーグを順当に勝ち上がり、決勝トーナメントへ進出。準々決勝で福岡県と対戦。激闘の末敗れましたが、ベスト8に進出することができました。

一月、二月には、愛知県剣道連盟のご協力をいただき、ここ数年できていなかった愛知県内の各地区で活躍した選手を集めた強化練習会を行うことができました。この練習会の目的は、次年度の全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の選手選考と、練習会に参加した選手が学んだことを各地区の仲間に伝えることにあります。練習会は、愛知県剣道連盟の祝理事長をはじめ強化委員の先生方と、中体連の強化コーチの先生方のご指導をいただいて、中学生同士が剣を交えて汗を流すことができ、お互いに刺激されながら充実した時間となりました。

今年度も愛知県剣道連盟ならびに、関係の皆様のご協力をいただいて活動ができました。次年度も今年以上の成果があげられるように取り組んでいきたいと思えます。そのためにも、中体連の先生方との連携を計り、ご理解とご協力をいただきながら、進めていきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

高体連だより



愛知県高等学校体育連盟
剣道専門部 委員長
田中 勝明

今年度も高体連剣道専門部の活動に関しましてご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます、この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。さて新型コロナウイルス感染症も少しではありますが減少傾向に変わりつつあります、すべての剣道活動にも



令和四年度第九回東海選抜 男子優勝岡崎城西

明るいましが見えてまいりました。しかしながら、依然として感染対策につきましましては、万全の対策を講じて様々な大会を開催してまいりました。

今後も高体連剣道専門部をよろしくお願い致します。

今年度も全国高等学校剣道選抜大会を目指し昨年十一月に行われました新人体育大会の戦評を掲載させていただきます。

令和四年度愛知県高等学校

新人体育大会

戦評

男子団体戦決勝、岡崎城西高校対大同大同の戦いとなりました、先鋒戦、岡崎城西(青山)が大同大同(中島)に対し相小手面と出ばな小手の二本勝ち。次鋒戦、城西(柘植)は大同(川崎)に上段からの豪快な面を二本連取。これで後がない中堅戦、大同(毛利)は城西(鈴木)に対し隙を見せず引き分けに終わる。勝負の副将戦、城西(竹村)は大同(鈴木)に上段からの片手面で一本先取これをしっかり守り切り、大将戦を待たず優勝を決めた。大将戦、城西(柴田)が大同(古井戸)にタイ



令和四年度新人女子優勝桜丘



令和四年度新人男子優勝岡崎城西

ミングよく相面で先取、そのまま時間となり一本勝ちを決めた。

女子団体戦決勝、桜丘高校対西尾高校の決勝、先鋒戦、桜丘(稲垣)対西尾(名倉)は稲垣が試合中盤に飛び込み面を先取し、流れを引き寄せ、二本目も同じような飛び込み面を決め二本勝ち。次鋒戦、桜丘(水野)対西尾(松田)両者攻防が続くが時間となり引き分け。中堅戦、桜丘(知久)対西尾(加藤)これも両者有効打突がなく引き分けに終わる。副将戦、桜丘(青山)対西尾(新實)も両者互角の戦いであったが引き分け。勝負の大将戦、桜丘(森谷)対西尾(溝口)追いかける溝口は果敢に攻めるが森谷も一歩も譲らず、結果は引き分けに終わり、桜丘が勝利を収めた。

大会の成績は以下の通りです。

男子団体優勝 岡崎城西高等学校

準優勝 大同大同高等学校

第三位 星城高等学校

第四位 名古屋高等学校

第五位 東海高等学校

第五位 桜丘高等学校

第五位 西尾東高等学校

第五位 津島東高等学校

女子団体優勝 桜丘高等学校

- 準優勝 西尾高等学校
- 第三位 岡崎城西高等学校
- 第四位 三好高等学校
- 第五位 大同大同高等学校
- 第五位 星城高等学校
- 第五位 中部大春日丘高等学校
- 第五位 阿久比高等学校

男子団体・女子団体それぞれ第三位までが愛知県春日井市で開催の第三十二回全国高等学校剣道選抜大会に出場、第五位までが岐阜県関市で開催の第九回東海高等学校剣道選抜大会に出場いたしました。

【結果】

二月十九日に、岐阜県関市で行われました第九回東海高等学校剣道選抜大会におきまして、男子の部、岡崎城西高等学校が決勝戦で済美高等学校（岐阜県）を二対一で破り、見事優勝を収めました。関係者の皆様、おめでとうございます！

その他、女子の部、第五位に桜丘高等学校・星城高等学校・西尾高等学校の三校が入賞いたしました。おめでとございました！

東海学生
剣道連盟だより

東海学生剣道連盟の

活動について



東海学生剣道連盟
理事長
六郷 恭二

東海学生剣道連盟は、全日本学生剣道連盟発足から一年後の昭和二十九年に創立され、本年をもって創立七十周年を迎えることとなった。連盟は、愛知・岐阜・三重・静岡の東海四県に所在する大学が加盟し、令和五年四月現在、三十二大学で構成されている。本連盟は創設に際し、「加盟各大学相互の緊密な連携を図り、学生剣道の健全な発展に寄与せんとする」とその目的を規約に定め、現在までその意思と取り組みは継承されている。運営は、加盟大学から選出された卒業生理事、学生理事等で組織される年一回の理事会の決議事項を、卒業生役員、学生幹事等で構成される常任理事会にて執行する体制となっている。連

盟が主催する大会は、毎日新聞社と共催で行われており、常任理事会には愛知県剣道連盟推薦理事とともに毎日新聞社からも参画している。

そこで決定された年間の主な事業計画は以下の通りとなっている。（東海学連剣友会、東海私立大学連盟大会含む）

- 四月 審判講習会（主催 全日本学生剣道連盟 主管 東海学生剣道連盟）
- 五月 東海学生剣道選手権大会
- 六月 東海学生剣道新人選手権大会
東海学生剣道連盟1部2部入替戦
- 九月 東海学生剣道優勝大会
- 十月 東海学生剣道新人優勝大会
東海学生剣道連盟審判研修会
- 十一月 全日本女子学生剣道優勝大会（主管 東海学生剣道連盟）
- 十二月 東海学連剣友大会
- 三月 東海私立大学剣道選手権大会

特に、毎年十一月に開催される「全日本女子学生剣道優勝大会（女子学生団体日本一を決める大会）」は、本連盟の最大の事業として位置づけ、連盟を挙げて大会の成功に導いている。本大会は、平成二十一年度開催の第二十八回大会から直近の令和四年度の第四十一回大会まで、春日井市の全面的な協力を得て春日井市総合体育館に

て開催されている。

ここ数年の加盟大学においては、新型コロナウイルス感染拡大により、今まで経験したことのない対応を迫られることとなった。特に感染拡大初年度の令和2年には、学生たちはオンライン授業が中心となり、学習活動や部活動が制限され、大学生活に大きな影響を及ぼした。これに伴い新入部員の勧誘もままならない状況となり、連盟登録部員数も激減した。

こういった中であって連盟では、令和二年四月に開催された常任理事会で、東海学生剣道選手権大会を始めとする上半期の大会の中止と延期を決定した。しかし、同時に大会開催に向けた連盟独自の「新型コロナウイルス感染症対策方針」の原案を作成し、同年8月の常任理事会において、秋に予定していた東海学生剣道優勝大会に替わる大会として、十一月に男女の団体戦を開催する方向で調整することを決定した。

その後、当該年度の全日本女子学生剣道優勝大会（全日本学生剣道連盟として中止が決定）会場として予定されていた春日井市総合体育館での開催を目指して、①新型コロナウイルス対策、②入場者数、③施設内における換気対策、④会場内のレイアウト、選手、役員等の動線等を施設管理者側と調整

し、最終的に選手、役員を含めた入場者総数五百名を上限として開催することの内諾を得た。続いて、十月の常任理事会において、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策ガイドラインを」定め、加盟大学へ向けて実施した三度の「活動アンケート」調査結果に基づき大会実施を決定した。

この決定に基づき、大会名を『東海学生剣道大会「打倒コロナ！2020』として十一月七日に男子大会、翌八日に女子大会を実施した。この大会は、当時の東海学生剣道連盟加盟三十三大学に対し、男子二十一大学、女子十六大学が参加して行われた。また、大会後に出された大会報告書には、大会後に出場者から感染者がひとりも出なかったことが報告されている。コロナ禍においても、最終学年の学生たちにとっての大会を開催できたことは、連盟の社会的責務を果たすことが出来たと考えている。

本大会開催に向けて、すべてが初めての取組みであり、困難な状況下で大いに奮闘を遂げ、敬意を表している。また、今後も、学生幹事が中心となり、学生剣道の発展に貢献できるよう、連盟役員が指導的視線で見守り続けることが重要だと考えている。

愛知県学校 剣道連盟だより

全国教職員大会に参加して



学校剣道連盟理事長
小島 崇利

● 県予選会 ●

令和二年度に予定されていた第六十二回全国教職員大会岩手大会は令和三年度にいったん延期されたものの、これも開催できず中止決定され、県予選会も開催されることはなかった。令和四年度、第六十四回長野大会が開催されることを祈りながら六月五日、パロマ瑞穂アリーナで県予選会が開催され、激戦の末に七名が選出された。この日、学校剣道連盟総会に続いて地区対抗大会も開催され、三年ぶりに県内各地の教職員の笑顔を見ながら親睦を深める機会となった。

● 強化練習 ●

長年、独自に名古屋拘置所において強化練習をさせていただいていた

が、今回から愛剣連の強化練習に合流させていただけることとなった。七月に四回、愛知県武道館において、八段の先生方の熱心なご指導の下、国民体育大会や都道府県対抗女子大会に出場決定している選手らと剣を交える貴重な機会を得ることができた。

● 大会前日 ●

長野大会の会場は長野市真島総合スポーツアリーナ（通称ホワイトリング）である。前日、名古屋で練習を済ませてからJR特急しなの号で現地入りし、その夜は打ち合わせとともにチームの結束力を高めるべく懇親を兼ねての夕食会とした。剣友たちと杯を重ねながら剣談に花を咲かせることができたのも大会参加の楽しみのひとつである。

● 全国教職員剣道大会 ●

一回戦の相手は強豪の兵庫県である。先鋒が二本を失うも、次鋒がコテを取り返し、中堅戦の引分けを以て、副将もコテを奪って勝者数での逆転に成功。猛反撃に出る相手大将を引分けに持ち込んで、貴重な勝ちを決めた。

二回戦は青森県である。先鋒は引分け、次鋒はお互いにメンを一本ずつ取って引分け、中堅も引分けとなった。副将戦をコテの一本勝ちで勝ち越し、これを取り返そうと前に出る相手大将

の技が尽きたところをメンを奪って、勝ちとなった。

三回戦の相手は群馬県が勝ち上がった。先鋒、次鋒ともに引分けの後、中堅戦で二本を失うも、副将が二本を奪ってタイに持ち込んだ。しかし大将戦では強い攻めからコテ二本を失い、惜しくもここで敗退となった。ベスト16という結果であった。

なお男子個人戦は一回戦で和歌山県に敗退、女子個人戦は大会前日に濃厚接触者指定を受けてしまい、残念ながら棄権であった。

● おわりに ●

全国教職員大会への参加を通して、選手の絆を深めるとともに、さらに力を高めようという目標をもつことができた。昨今、教員の働き方改革を主要な目的とした部活動の地域移行が盛んに議論されている。その一方で、剣道に魅力を感じて教職に就いた者、学校で出会った剣道に生きがいを感じている生徒たちがいるのもまた事実であり、学校部活動は今後も剣道界の重要な役割を担い続けていくことが期待されている。愛知県学校剣道連盟は教職員大会予選、地区対抗大会、都道府県対抗大会予選、各地区持ち回りの稽古会・懇親会といった活動を通して、これからの剣道の発展に寄与していきたいと考えている。

地区だより

【尾張剣道連盟】



尾張剣道連盟
事務局長
安田 徹夫

小川金之助範士十段像争奪
十三地区対抗剣道大会

令和四年九月二十五日、岩倉市総合体育文化センターにて、標記大会を三本ぶりに実施することができました。

この大会は、昭和四十三年に開催された「郡市別対抗剣道大会」を始まりとして、名称を変えながら現在に至っています。

小川金之助範士は、明治十七年、丹羽郡岩倉村（現岩倉市）に生まれ、幼少より剣道に打ち込み、十九歳で明倫館中学校（現明和高等学校）の剣道教師を務め、その後、京都に移り、道場「弘道館」を開きました。

大日本武徳会武道専門学校教授、二度の天覧試合特選出場など輝かしい実績を残され、昭和三十二年、剣道十段を授与されました。

ちなみに剣道十段を授与された者は



小川金之助範士十段像

史上五人のみであり、さらに、小川範士は剣道界初の紫綬褒章も受章されています。

本大会で優勝地区に授与されるブロンズ像（写真）は、範士が七十三歳の時に制作され、第一回郡市別大会開催を機に、ご遺族から尾張地区剣道連盟（現尾張剣道連盟）に寄贈されたものです。以来、この像は優勝地区の榮譽に、いっそうの輝きを添えています。

なお、十三地区とは尾張地区の十七市六町一村を次のように区分けしたものです。

- 1 尾張東地区
- 2 尾張旭地区（尾張旭市）
- 3 瀬戸地区（瀬戸市）
- 4 春日井地区（春日井市）
- 5 小牧地区（小牧市）
- 6 犬山地区（犬山市・大口町）
- 7 江南地区（江南市・扶桑町）
- 8 岩倉地区（岩倉市）
- 9 一宮地区（一宮市）
- 10 稲沢地区（稲沢市・清須市）



小川金之助範士十段像争奪の試合写真

今大会の結果は次の通りです。

この方式により、最後まで総合順位が確定せず、応援にも一層熱が入り、選手同士の団結力も強まり、大会の盛り上がりにつながっています。

- 11 津島地区
（津島市・愛西市・あま市・大治町）
- 12 海部南部地区
（弥富市・蟹江町・飛島村）
- 13 北名古屋地区（北名古屋市・豊山町）

また、本大会の一番の特色は、小中学生、一般女子、一般男子の三つの部門ごとに地区対抗試合を行い、それぞれの得点（一位は十四点、二位は十二点、三位は十点、一勝は七点、〇勝は四点）を合計して順位を競うことにあります。



総合の部優勝 春日井地区

- 小中学生の部
優勝 春日井地区 二位 北名古屋地区
- 一般女子の部
優勝 春日井地区 二位 小牧地区
三位 瀬戸地区 三位 津島地区
- 一般男子の部
優勝 北名古屋地区 二位 春日井地区
三位 小牧地区 三位 稲沢地区
- 総合の部
優勝 春日井地区
二位 北名古屋地区
三位 小牧地区

伝統あるこの大会をさらに充実したものにすするため、今後も努力していきたいと思ひます

【名古屋市剣道連盟】



名古屋市剣道連盟
令和四年度事務局長
久保 多加史



尾野理事長あいさつ

令和四年九月十七日（日）、天白スポーツセンターで、第二十八回名古屋市剣道指導者講習会が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、なかなか開催できずにいましたが、三年ぶりにようやく開催されました。

今回の講習会は、例年実施されているものとは違い、本年度（一財）愛知県剣道連盟の指導普及委員会指導育成部会が進めている、第1期愛知県剣道

指導者講習会の三回の講習を修了した講師が担当する講習会が、県内で初めて行われました。

受講した参加者は、名古屋市内の各区の剣道連盟、道場、実業団、くさなぎ会、小中体連、高体連の各団体から合計八十名の参加を得ました。

まず、開会式で、尾野 博之理事長により挨拶および今回の講習の趣旨説明とともに、講習会に臨むにあたり、以前勤務していた警察学校の校長から、「学生は真っ白なキャンパスであり、指導者は、そのキャンパスに絵を描くようなもので、どのようにでも変わり、それは先生次第である。」という話を例に挙げ、「伝統文化である剣道を正しく伝える」ことを強調され、講習生への意識付けができました。続いて講師紹介がありました。以下の先生方にご指導いただきました。

東 良美範士 山崎 尚範士
安保 正教士 中村隆信教士
勝野伸太郎教士
白石裕章教士 福田武雄教士
鈴木 篤教士

最初に、東良美範士による剣道講話があり、内容は以下の通りです。

- ・「基礎・基本」の実践や目標や自己反省の大切さ。
- ・健康第一であり、「生きた教材」として、名古屋市剣道連盟の稽古会に積極的参加。
- ・姿勢、目付け、足さばきを正し「一眼二足三胆四力」の実践。



東 良美範士講話



- ・大谷翔平のゴミ拾いは「運を拾う」ことにつながる。
- ・榊原 正先生の「求める味」から、稽古は命がけであること。
- ・切り返しの実践では、正しく取り組めると「楽しく」なる。



木刀を使用しての素振り

- ・剣道における礼法等、日常生活に生かされ、子供たちへの影響。
- ・地球の苦難（コロナ、自然災害、戦争）の中では、「基礎・基本」に立ち帰る。自分が求め「一人稽古」をすることが大切。
- ・率先（自分から掛かる）して覚え「体得」し「理合」のある一本を目指し、自己の確立に努める。
- 次に、鈴木 篤講師担当で準備体操と木刀を使用して素振りを行いました。参加者全員に、これからの講習への意気込みを感じさせる雰囲気が出ていました。

まず、第一時講習として、福田武雄講師担当で日本剣道形が行われました。基本的な動きを実践しながら、全剣連の中央講習会で取り上げられた「共通理解」についても紹介があり、

確認をすることができました。

続いて十分ほどの休憩の後、第二時講習として、鈴木篤講師担当により、木刀による剣道基本技稽古法が行われました。受講生の動きに、日頃からの取り組みがあまり行われていないと思われるようなところも見られ、今後のより一層の取り組みが求められることが感じられました。

午前中の講習を終え、昼食・休憩の後、午後から、第三時講習として、白石裕章講師担当で指導法が行われました。

まず、改めて準備体操を行い、竹刀を使った基礎的な動きを、木刀による剣道基本技稽古法の基本一の動きを、すり足動作、踏み込み動作で確認をしました。

次に、面と小手を着け、実践に移りました。内容は次のような流れで実践



閉会式



木刀による剣道基本技稽古

が進められました。

- (1) しかけ技
- ① 一本打ちの技
面 小手 胴 突
- ② 二・三段の技
小手―面 小手―胴
- ③ 払い技
払い面 払い小手
- ④ 出ばな技
出ばな面 出ばな小手
- ⑤ 引き技
引き面 引き胴
- ※ 鏝ぜり合いの注意点
- (2) 応じ技
- ① 抜き技
面抜き面 面抜き胴
- ② すり上げ技
面すり上げ面
小手すり上げ面
- ③ 返し技
小手返し面 面返し胴



合同稽古の様子



- ④ 打ち落とし技
小手打ち落とし面

- (3) 攻め合い稽古

- (4) 互格稽古

※ 鏝ぜり合いからの分れ
それぞれの講習終了後、受講生の中に講師も加わって合同稽古が行われました。

稽古終了後、閉会式が行われ、山崎 尚範士より、ご講評をいただきました。内容は以下の通りです。

- ・聞く姿勢を正し、前向きに取り組むこと。
- ・竹刀を取り出した後の竹刀袋の扱いを正すこと。残心につながる。
- ・指導者としての学びの大切さ。
- ・社会人（大人）としての心構えを正し、自己の足りなさを謙虚に受け止めること。

最後に、尾野 博之理事長から挨拶があり、受講者に向けて、今回の講習会で得たものを、それぞれの指導の場で生かせるようにとのお話をもって会が閉じられました。終了後、多くの受講者から「勉強になった」との声が多く聞かれ、今回の講習会が、大変充実したものになったことを物語ることになりました。

【配布された資料】

- 講話資料
(範士八段 東 良美)
- 令和四年度
剣道中央講習会指導法
- 日本剣道形「共通理解」
- 指導普及委員会
指導部会 資料
- 指導法講習における
「重点事項」
- 剣道指導要綱
- 日本剣道形
指導上の留意点

【西三河剣道連盟】



西三河剣道連盟
事務局長
手嶋 道雄

令和五年二月十一日

第二十一回西三河剣道祭

令和二年度・三年度とコロナ蔓延にて中止に追い込まれたこの事業も、充分な感染予防対策を講じ、大会委員会を中心に開催に向けて企画しました。

参加募集開始も順調に申し込みがあり、居合道十七人・剣道九十一人の参加者が日ごろ錬磨された技を披露された大きな盛り上がりがありました。

また、この祭典では、西三河剣道連盟の役員をお勤めいただき、定めた年数以上の貢献をいただきました。また、西三河剣道連盟表彰規程に基づき七名の先生方を功労章表彰させていただきました、大会に於いては、令和四年内に西三河剣道連盟表彰規程に定めた中で十四の大会に於いて優秀な成績を収められた選手の皆さんを表彰し、栄光を讃えました。



西三河剣道祭



岐阜県剣道連盟様との交流稽古会

令和五年二月十八日

県外交流稽古会

コロナ感染がやっと鎮静化しつつある中、西三河剣道連盟では令和二

年一月（元年度実施）以後、世界中がコロナ感染に脅かされ多くの活動が足踏み状態となり、剣道界も同様となり多くの事業が見送られたり、制約される中で厳重な予防対策を立て無観客開催にて寂しい事業開催、中止となるなどを経てやっと令和五年の年明けとともに薄日が差し込みだし当剣連では、年末から年明けにかけて強化委員会にて県

外交流稽古会の再開を決定され、訪問先を岐阜県剣道連盟様にお願ひし、受け入れをご承引いただきました。

令和五年二月十八日に、岐阜県内バロー人材開発センター漱玉館に於いて岐阜県剣道連盟理事長 下島貴代一先生はじめ多くの先生方にお迎えをいただき素晴らしい道場施設でご指導をいただき、参加した本会の会員二十九名は感動に浸って再会できますことを祈念し帰路につきました。

【東三河剣道連盟】



東三河剣道連盟
令和四年度事務局長
牧野 孝夫

設立70周年記念武徳祭剣道大会

令和四年六月五日（日）豊橋市総合体育館においてコロナで二年中止となっていた武徳祭剣道大会を三年ぶりに開催することができました。今年度が当連盟設立七十周年にあたり面手拭いを作成し大会参加者全員に配布致しました。この手拭いの書『天地自然』は豊橋市在住の書道家、権田穂園先生に揮毫して頂きました。この大会は少年・中学一年～三年・高校一、二年・



『天地自然』とは天地自然の理法に従う、雨が降ったら傘をさすといった当たり前のことを当たり前に一つひとつ確実にすること

一般各男女の部の十四部門個人戦で争い、参加者六百六十二名で熱戦を繰り広げました。五年前には千人を超える大会でしたが年々剣道人口減少で参加者は減ってはいますが、剣道の理念を踏まえ試合を通じて日本の伝統文化である剣道を継承して行くためにも本大会を永く継続できるように努力していきたいと思っております。

各部門優勝者は次のとおりです。

- 少年男子 阿部 晴篤（豊橋南部剣）
- 少年女子 菅 明日香（豊橋南部剣）
- 中一男子 鈴木 健誠（桜丘）
- 中一女子 村田 瑠衣（二川）
- 中二男子 藤原 哲也（豊橋南部）
- 中二女子 津波古 彩音（豊川西部）
- 中三男子 杉原 琉仁（高師台）
- 中三女子 大林 蓮和（豊橋北部）
- 高一男子 安藤 杯児（桜丘）
- 高一女子 知久 愛実（桜丘）
- 高二男子 兵藤 未来（豊川）
- 高二女子 青山 姫良里（桜丘）
- 一般男子 大谷 将平（錬心会）
- 一般女子 竹本 美由紀（豊橋剣連）

審判講習会

審判講習会は例年三月に一回開催しておりましたが今年度は県公認審判更新審査があるということで二回実施いたしました。一回目は、九月四日（日）豊橋市武道館において更新する方を中心に行い講師として畠山隆吉先生・菊



武徳祭



審判講習会

継続し個々の審判技術向上を図りより良い審判員育成を考えております。講習会後に行つた総会の中で全日本剣道連盟有効賞を受賞された後藤英壽先生、白井孝一先生の伝達式を行い、また今年度、各地区の普及発展に貢献し顕著な方々を表彰いたしました。表彰者は次の四名の方です。

- 西郷 宏隆（豊橋） 大井 実（豊川）
- 茂木 文子（新城） 七原 敦子（女子部）

池勝美先生をお迎えし、東三河より数多くのBランク評価以上の審判員を選出できるよう内容の濃い講習会となりました。二回目の講習会は令和五年三月五日（日）豊橋市武道館において前回と同じく両先生が講師を務め、審判員の資質・技術向上を目的として五市地区、中学校、高等学校等の指導者、公認審判員登録者等で受講者六十五名が参加して実施いたしました。初めに講義があり審判員の心得他、最近の試合での審判事例の修正点などの説明がありました。その後桜武館の中学生に試合者として協力して頂き実技指導を受けました。有効打突を正しく見極めるための審判員の位置取りと対応の仕方、特に副審の位置取りの指導がありました。最後に質疑応答で終了となりました。本連盟ではこの審判講習会を



表彰

【尾南地区剣道連盟】



尾南地区剣道連盟
令和四年度事務局長
山田 政晴

中学生強化練習

本連盟では、毎年、地区内の中学生を選抜して中学生強化練習を実施しています。当初は、夏に行われる中学校総合体育大会剣道の部に出場する選手を対象に実施して、いました。そのため三年生が中心でした。平成三十年から試合に向けての強化練習の他に、正しい剣道の幅広い普及

や個人の技術の向上を通じて各中学校全体の力量向上を図るという目的で、一・二年生を対象とした強化練習も行っています。

令和四年度も、七月二十五日（月）に試合に向けた強化練習を、八月二十三日（火）二十四日（水）に午前九時三十分～午後四時まで東海市民体育館剣道場において、各中学校から一・二年生六十六名を選抜し、強化練習を行いました。講師として本連盟から七名、中体連知多地区剣道部員から六名の合計十三名が指導に当たりました。本稿では、一・二年生を対象とした中学生強化練習について述べたいと思います。



一日目、開会式後、安部会長から「この強化練習では、剣道着、袴の着装等基本的なことから始まり、剣道全体に関する色々な知識を見直す機会でもあります。また、二日間を通じて他校との仲間づくりにも励んでください」と挨拶の後、原田講師の「準備運動」「基本動作」等、野末講師による「木刀による剣道基本技稽古法」を行いました。午後は、安部会長が「剣道の理念」「剣道修練の心構え」等について、約1時間講

話をしました。その後、面を付けて竹刀で「木刀による剣道基本技稽古法」の反復練習、「しかけ技等の基本打ち」、最後に講師を含めた全員での「回り稽古」をして一日目を終了しました。

練習や昼食後の休憩中、一日目の日程終了後などに他校の生徒との話に花が咲き、和気あいあいとした交流風景が見られたのは、安部会長の開会式での挨拶が具現化されたようで嬉しく感じました。

二日目は、一日目と異なつて参加者は雰囲気慣れたのか、お互いに談笑するなどして練習の始まりを待っていました。

一日目と同様に原田講師による「準備運動」に始まり、丹羽講師による「申し合わせ約束稽古」、その後、全員で「廻り稽古」をして午前の日程を終了しました。昼食休憩後、大嶋副会長が「三つの先」「目付け」について約一時間剣道講話をし、その後、約一時間三十分「試合稽古」をしました。試合稽古のチーム編成では、他校との混成となったもの、お互いが励まし合うなどチームとしてのまとまりを見せました。最後に午前と同様



に全員が「廻り稽古」をしました。閉会式では、北村顧問から、「二日間の強化練習は、充実した、素晴らしい内容であったと思います。皆さんは、学校に戻ったら自信を持って指導的な役割を果たして欲しい」と講評があり、二日間の全日程を終了しました。

今年度は、二日間とも剣道講話を安部会長、大嶋副会長が行い、実技だけでなく知識を身に付けることも重点を置きました。また、試合稽古を以前は二日間とも行っていましたが一日だけとし、しかも時間を短縮しました。

今後、参加者が各中学校に戻って、この強化練習で得た知識、技術をリーダ的存在となり仲間にも広めていくことを期待しています。

役員

役員

(令和五年・六年度現在)

副会長

相談役

参与

大	祝	松	平	渡	稲	勝	安	松	和	菅	北	後	内	山	白	近	林	伊	細	水	松	東	瀧	牧
嶽	大	本	原	並	吉	股	部	本	田	沼	村	藤	武	允	孝	勁	邦	一	昌	助	房	日	順	野
將	要	健							伊	幸	英	壽	夫	一	助	夫	助	彦	昌	助	房	男	賢	野
文	司	郎	稔	直	悟	彦	利	武	功	夫	豊	夫	壽	夫	一	圀	夫	助	彦	昌	助	房	賢	野

市	川	武	利	宏	勉	香	一	二	人	仁	正	学	厚	夫	隆	志	五	高	郎	幸	美	子	登	治	二	介	健	由	味	山	堀	日	中	大	上
川	武	利	宏	勉	香	一	二	人	仁	正	学	厚	夫	隆	志	五	高	郎	幸	美	子	登	治	二	介	健	由	味	山	堀	日	中	大	上	
川	武	利	宏	勉	香	一	二	人	仁	正	学	厚	夫	隆	志	五	高	郎	幸	美	子	登	治	二	介	健	由	味	山	堀	日	中	大	上	
川	武	利	宏	勉	香	一	二	人	仁	正	学	厚	夫	隆	志	五	高	郎	幸	美	子	登	治	二	介	健	由	味	山	堀	日	中	大	上	

常任理事

理事

宗	章	義	治	夫	吾	顯	光	惠	邦	千	久	夫	善	久	樹	良	一	元	孝	之	則	弘	義	隆	吉	典	一	隆	夫	美	尚	努	郎	治	治	義	山
宗	章	義	治	夫	吾	顯	光	惠	邦	千	久	夫	善	久	樹	良	一	元	孝	之	則	弘	義	隆	吉	典	一	隆	夫	美	尚	努	郎	治	治	義	山
宗	章	義	治	夫	吾	顯	光	惠	邦	千	久	夫	善	久	樹	良	一	元	孝	之	則	弘	義	隆	吉	典	一	隆	夫	美	尚	努	郎	治	治	義	山
宗	章	義	治	夫	吾	顯	光	惠	邦	千	久	夫	善	久	樹	良	一	元	孝	之	則	弘	義	隆	吉	典	一	隆	夫	美	尚	努	郎	治	治	義	山

監事

手	嶋	道	弘	之	久	信	俊	明	隆	男	之	惠	隆	章	巳	昭	弘	田	出	井	小	白	二	成	内	中	水	田	森	中	夏	正	今
手	嶋	道	弘	之	久	信	俊	明	隆	男	之	惠	隆	章	巳	昭	弘	田	出	井	小	白	二	成	内	中	水	田	森	中	夏	正	今
手	嶋	道	弘	之	久	信	俊	明	隆	男	之	惠	隆	章	巳	昭	弘	田	出	井	小	白	二	成	内	中	水	田	森	中	夏	正	今
手	嶋	道	弘	之	久	信	俊	明	隆	男	之	惠	隆	章	巳	昭	弘	田	出	井	小	白	二	成	内	中	水	田	森	中	夏	正	今





剣道五段 (令和四年四月二十四日)

(中)

- 松野 和樹(23) 細江 安緯(24)
- 黒川 博貴(25) 片山果沙稀(25)
- 藤堂 恵士(26) 桑原 大輔(26)
- 久田松雄一郎(26) 井上 寛康(28)
- 山下 雅仁(30) 平松 侑樹(34)
- 熊城 拓人(35) 中村 有毅(37)
- 三輪 寛子(39) 森 洋介(40)
- 渡邊 拓弥(40) 筒木 公一(41)
- 刀根 寿昭(42) 荒尾 修(43)
- 酒井 幸子(44) 中 靖(45)
- 太田 滋久(46) 佐藤 由規(46)
- 栗脇 亮介(46) 岡本 貴之(47)
- 森 稔高(51) 城 貞晴(52)
- 岡田この美(54) 片桐 詩乃(59)
- 石山 信博(74)

山崎 尚(64)

(京都)

- 田中 巧(51) 尾崎 哲雄(53)
- 山元 剛(55) 平野 肇(74)

剣道錬士 (令和四年五月六日)

(京都)

- 柴田 雄太(33) 権丈 麻美(34)

剣道七段 (令和四年五月十四日)

(枇杷島)

- 曾木 祐寿(39) 脇菌 豪(39)
- 近藤 大希(39) 西山圭太郎(40)
- 今津 齐(41) 板倉 彰俊(45)
- 清水 俊雄(45) 稲吉 道雄(46)
- 近藤 晶彦(50) 木村 美紀(50)
- 馬場 栄次(50) 明壁 啓純(54)
- 三浦 鉄也(54) 梅村 知弘(54)
- 青木 友邦(55) 杉江 広幸(58)
- 浅井 直人(61) 笠井 紀明(61)
- 石井 晴夫(62) 滝藤 若康(62)
- 村瀬美貴男(66) 田中 良子(67)
- 金井 一泰(71)

剣道六段 (令和四年五月十五日)

(枇杷島)

- 野崎優太郎(30) 河合謙二郎(37)
- 中田 将人(38) 上野 志朗(39)
- 岩月 達弘(43) 和久田千春(44)
- 榎 恵理子(44) 今泉 延之(45)
- 中塚 賢二(47) 海林 幹拓(49)
- 浜崎 博充(50) 森 一貴(51)

居合道六段 (令和四年七月二十二日)

(岡山)

- 加藤 直世(51) 山田 英貴(51)
- 大鹿 和徳(53) 田丸屋直子(54)
- 西桐奈穂美(54) 大塚夫久美(55)
- 藤村 享邦(55) 山本 雅章(61)
- 梅本 高靖(63) 世戸口文泰(63)
- 江原 禎人(64) 牧野 勇夫(80)

剣道五段 (令和四年七月二十四日)

(中)

- 小瀬木 稜(22) 門田 優駿(25)
- 山田 一太(25) 村井 大輔(25)
- 蓑田 隆幸(26) 安原 純香(26)
- 阪本 皇子(27) 村井 昂介(27)
- 田中 陣(29) 宮本 祐希(32)
- 足立 大紀(33) 森 伸一郎(34)
- 大矢 保彰(36) 花井 貴広(36)
- 寺澤 純(39) 榊原 瑞樹(43)
- 宮田 生馬(44) 阿比留 瞳(44)
- 中川 美穂(45) 杉浦 雅人(46)
- 伊藤 るみ(47) 角田 武士(48)
- 小林 博(48) 梶川 克哉(48)
- 丸地 幸二(48) 青木 淳(49)
- 明路 功久(52) 川本陽一郎(53)
- 園田 直哉(54) 小宮 幸人(54)
- 鈴木 眞弓(55) 板橋万里子(55)
- 近藤 二郎(56) 吉田 享子(58)
- 内山 和男(61)

剣道七段 (令和四年八月六日)

(福岡)

- 酒井 佑記(41) 馬倉 敏治(42)

田之上ゆり子(55)

(福岡)

剣道六段 (令和四年八月七日)

- 磯部 清隆(50)

剣道八段 (令和四年八月十三日)

- 外山 浩規(48)

剣道七段 (令和四年八月二十日)

- 石原 光貴(49) 森下 美鈴(51)

剣道六段 (令和四年八月二十一日)

- 喜多 寿栄(48) 貝塚 緑(49)
- 久米 昌人(55)

杖道七段 (令和四年八月二十六日)

- 小崎 順一(73)

杖道六段 (令和四年八月二十六日)

- 戸谷 高(38)

居合道五段 (令和四年十月二日)

- 浅野 望美(33) 山本 昌生(75)

剣道七段 (令和四年十一月十二日)

- 宮本 大(41) 鈴木 武洋(44)
- 平野 俊輔(49) 田中 博隆(50)
- 城坂 友章(51) 久保 元子(51)
- 近藤 篤士(52) 園井 浩人(52)
- 森 充生(52) 和田 宜宏(54)
- 村瀬 洋(57) 白井 雅子(58)
- 柴田 智広(59) 小塚 和典(61)

荒川 憲弘(62) 大島 順子(63)
 石井 哲也(63) 近藤 勇治(68)
 菅原 聡(69) 高野 政二(70)
 宇都 義人(72) 鈴木 修(73)
 松下 哲(75) 下見 義勝(83)
 剣道六段(令和四年十一月十三日)
 (枇杷島)

増田健太郎(48) 成瀬 浩章(51)
 田添 竜男(53) 長友 豊蔵(54)
 鈴木 志信(55) 中村 秀樹(55)
 大仲 良仁(57) 今村 正博(57)
 深谷 修(59) 大谷 宜生(59)
 浅野 史朗(64) 中倉 章(66)
 眞野 隆雄(68) 松井 満男(77)
 居合道教士(令和四年十一月十八日)
 (東京)

山崎 弘(56)
 笠原 鞠奈(31) 吉武 剛(31)
 大島健太郎(31) 権丈 文生(32)
 北村 亮祐(33) 岡田 佑介(38)
 森 泰輔(40) 富本 裕一(40)
 水町 正広(42) 井戸 邦芳(44)
 久木原裕二(47) 内田 敦子(47)
 牧野 亮太(47) 北山 健三(47)
 山本 律子(49) 川辺 英明(53)
 羽田 康則(54) 祖父江由美子(55)
 川上 康博(56) 堀井 明(56)
 筒井 泰貴(59) 西山 直幸(59)
 森本 涉(67) 國井 鉄也(67)
 藤本 牧生(73) 西川 清治(73)
 杉山 有良(80)
 居合道錬士(令和四年十一月十八日)
 (東京)

中村 晴男(72)
 剣道五段(令和四年十一月二十三日)
 (蒲郡)

清水 公陽(23) 金 智也(23)
 杉浦 愛理(24) 塩屋 裕斗(25)
 中村 文美(25) 織田 瑞(25)
 山田 将也(25) 横井 紀明(26)
 夏目 浩希(26) 桂川 侑也(26)
 青山 侑太(27) 早川 奈々(27)
 山田絵里華(27) 榊原 綾奈(28)
 長屋 亮太(28) 山田 晃司(29)
 本多 宏充(31) 森田 泰裕(38)
 野村 哲也(38) 八木 皓嗣(38)
 加藤 真也(40) 山本 貴久(41)
 岡田真由美(42) 田口 寛之(42)
 遠藤まどか(42) 古川 秀秋(43)
 佐々木健吾(44) 浦門 朋子(44)
 五十嵐 昌(44) 渡辺 光一(44)
 外畑 和彦(45) 勝谷 昌由(47)
 西川 和彦(48) 飯田 征男(48)
 田宮 要(48) 坂田 博(49)
 高橋 英隆(49) ツルツマルコ(50)
 原田 慎之(50) 且木 香織(51)
 河原 照雅(51) 土居 忍(52)
 伊藤 芳郎(54) 井関 豊(54)
 西 秀隆(58) 大友 精二(58)
 石川富美子(59) 西尾 朋浩(61)
 吉田由美子(61) 広浜 洋子(65)
 平野 公朗(69) 村田 実(69)
 山口 武雄(71) 鎌田 暁子(73)
 剣道八段(令和四年十一月二十五日)
 (東京)

阪野 理成(51)
 居合道七段(令和四年十一月二十七日)
 (東京)

東 朱美(65)
 居合道六段(令和四年十一月二十七日)
 (東京)
 大石 英岐(54) 山田 恭嗣(54)
 田中 宏一(79)
 居合道五段(令和五年一月二十二日)
 (天白)

高橋 秀徳(29) 南 篤志(29)
 谷定 貴之(60) 光崎 泰夫(67)
 剣道七段(令和五年二月十八日)
 (長野)

加賀 真琴(44) 増田 好輝(56)
 剣道六段(令和五年二月十九日)
 (長野)

太田 将貴(34) 今井 教文(35)
 芝 茂浩(52)
 杖道五段(令和五年二月十九日)
 (天白)

尾関 俊輔(44) 安達 弘(56)
 榎林 優(59)
 居合道七段(令和五年三月五日)
 (京都)

杉山 英昭(54) 高木 茂(59)
 池田美千子(62)
 居合道六段(令和五年三月五日)
 (京都)

大久保敏明(40) 吉原辰之進(40)
 佐藤 祐広(41) 林下 英司(42)
 剣道教士(令和四年十一月十八日)
 (東京)

川上 翔平(37) 小崎徳一郎(37)
 樋江井清隆(54) 青木 光江(59)
 古橋 五月(66) 安福 茂子(66)
 清水 洋(70) 浅見 了(70)

居合道八段(令和四年十一月二十五日)
 (東京)

ロビンソングレゴリー(50)
 片桐 誌乃(60) 安島伊津代(65)
 内藤 眞廣(69) 浅井 俊秀(72)

● 範士昇格 ●

おめでとぅございませう



範士 尚
山崎

このたび全日本剣道連盟より栄誉ある剣道範士の称号を拝受させていただきました。身に余る光栄と感謝いたしております。

ふり返りますれば、父（範士八段、第十六回全日本剣道選手権大会優勝）に導かれるまま六歳より竹刀を握り、六〇年が過ぎようとしております。

「努力は天才にまさる」この言葉を父に教授され、私の座右の銘として修行してまいりました。この間、厳しくも心温かい諸先生方にご指導のもと剣道の道を歩ませていただきました。大変な幸せなことに感謝いたしております。

今後は称号に恥じないよう剣道理念を念頭に置き、なお一層の精進を重ね、斯道発展の為、微力を尽くす所存でございます。

何卒倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

××××× 八段昇段者の紹介 ×××××



外山 浩規
(愛知県警)

令和四年八月十三日の八段審査会において合格することができました。

これまでご指導いただきました先生方、諸先輩方、ご協力いただいた多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

四回目の受審で合格させていただきましたが、受審資格を得た初めての審査の時は既にコロナ禍であり、職場の制限により対人稽古が一年以上できていない状況でした。受審すべきか迷いましたが、今後のための経験、参考になればという中途半端な考えで受審したため、後悔しか残らない審査となつてしまい、コロナによる稽古環境を理由に他の稽古方法を模索したり工夫したりせず、審査に真剣に向き合つてこなかった自分自身に気づかされました。これを機に、目的意識を強く持ち、それに裏付けられた行動ができなければ高い壁は乗り越えられないと切に思いました。

対人稽古ができるようになってからは、基本稽古の中で姿勢、構え、足さばき、打突、残心など、細部にわたつて確認と修正を繰り返しい、地稽古

では打突に至るまでのプロセスを課題として取り組んできました。過去の審査の反省から、どうしても「崩さなければ」「打たなければ」という強い意識が働き、一方通行の剣道になってしまった。その中で「我慢」すること、「溜め」を作ることは大きな課題となり、これを改善することは容易ではありませんでした。機会があるごとに八段の先生方との稽古を通じて的確なアドバイスをいただき、また、本連盟の受審者講習会での模擬審査において、第三者の視点で評価していただくことで現状を把握することができ、審査に向けての課題と方向性がより明確となり、合格へ近づく明るい兆しが見えてきたように思います。

終わりに、地元名古屋での審査という縁もあり、愛知県剣道連盟の皆様には大きな後押しをしていただきました。今後より一層精進する所存でありますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



阪野 理成
(愛知県警)

私が昨年十一月の剣道八段審査において合格できたのは、愛知県剣道連盟の先生方のご指導、支えてくれた家族、応援してくれた方々のおかげだと心か

ら感謝しています。

本当にありがとうございます。

私は平成三十年十一月から剣道八段審査を受審し、今回が八回目となりました。途中、新型コロナウイルスの感染拡大により剣道の稽古は自粛、中止となり、対人稽古を行うことがしばらくできなくなりました。今、振り返ってみるとこの時期があったからこそ、合格できたのだと思います。

私は、平成十七年まで愛知県警察の剣道特練生でしたが、特練の稽古が終わった後も一人で素振り、トレーニング、ランニング等に励む先生、先輩方を見てきました。剣道には一人稽古という稽古法があるとの教えを受けたこともあり、コロナの感染拡大が収束するまでは一人稽古をしっかりと行いました。自分に足りない所、弱いところを見つめなおし、そこを重点的に補強するよう心掛けました。この時期にしっかりと身体づくりができたことが良かったと思います。

審査前には八段講習会に参加させていただき多くのことを学びました。その中で講師の先生から「覚悟」という講話を頂きました。八段に合格するための覚悟が自分にはあるのか、覚悟を持った立ち合いができていのか自問し、審査当日は覚悟をもって二次審査、二次審査とも行えたと思います。私にはいつもいい方向に導いてくれる先生方が近くについて、技術を指導していた

だいたり、励ましていただいたりと恵まれた環境で剣道の稽古に励むことができたことに感謝しています。

今回剣道八段に合格させていただきましたが、剣道も人としてもまだまだ未熟であり、今後も努力精進を怠らず、愛知県剣道連盟発展のため微力ながら尽力していきたく考えています。

女性剣道七段誕生

七段合格者の紹介

究極の一本を目指して



森下 美鈴
(西三河)

令和四年八月 新潟県立武道館（謙信公武道館）での七段審査会にて合格させて戴きました。

審査では、遠目でしっかり気合いを掛け自分から勝手に打突しないよう心掛けました。初太刀に集中してじっくり攻め合い、相面、その後、擦り上げ面、返し胴などを打突しました。全てが満足できる充分な打ちだったかとい

うと、若干の物足りなさがありました。稽古会にて先生に教わった「有効打突でなくても一本を打ち切る」ことはやり切れたと思います。

私は、七段審査に求められていることは合い気になることであり、その一瞬の立ち合いの中で相手よりいかに優位さを引き出すかと言うことだと稽古してくださった先生方との対話から、気付かされました。

自分勝手な打突は、数多く打っても全く評価されず、私の初回審査は、緊張から気持ち焦り打突が全て空回りしてしまっただのが、敗因だったと思います。

そこで、審査では以下3点を意識しました。

- ・相手と一緒に攻防し先を掛けて機を見て打突すること
- ・打突が不十分でも最後まで打ち切る
- ・攻め返しを意識し、気持ちで負けな

これらを意識することで、今回落ち着いた立ち会いができました。

私が昇段出来たのは、稽古会にてご指導してくださった先生方、一緒に稽古してくださった剣友のお陰です。心より御礼申し上げます。

これからは、私が打てる究極の一本を目指して、精進して参りますので、引き続きご指導くださいますよう、宜しくお願い致します。

夢の七段10年計画の挑戦



大島 順子
(尾張)

コロナ禍、稽古も減り、モチベーションも下降、周りの剣友達も何人かリタイヤ、サボり癖の付きやすい自分にとって何か目標が必要でした。

高校からデビュー、独学に近い剣風は一級にも受からず、これはしっかり習わないといけないと同級生の通う道場へ通い始めました。そこで当時愛知県警察学校教官だった宮林伯次先生（鬼の宮林の異名を持つ）、大島溢子先生（後の義母）に指導して頂き、剣道の基礎をみっちり習い、本格的に歩むことになりました。

とは言っても、結婚、出産、育児に家事と休憩も多く、それでも剣道をするのが当たり前の家庭環境に恵まれて四十年近く継続することが出来ました。

今回の審査合格の要因の一つ「継続は力なり」です。

師匠であり義母の溢子先生は七十三歳で七段を合格、その頃は女性でしかも最高齢という快挙でした。あの時の立ち合いは今でも脳裏に焼き付いています。

自分が挑戦を始めたのが六十二歳、あと十年ある。よし！長い目標ができた！夢ができた！

幸運にも予定より早く合格を頂きかなり戸惑いもありますが、まだまだ未熟な自分、いつか母の形見の防具が似合うように頑張つて精進し「生涯剣道」を目指します。

また道場の子どもの元気なエネルギーをもらいながら、剣道の素晴らしさ、楽しさを周りに伝えていき仲間を増やしていくことも取り組んでいきたいと思っています。

先生の一言



田中 良子
(名古屋)

令和四年七月十四日、枇杷島スポーツセンターに於いて実施されました剣道七段審査会で合格することが出来ました。

これは偏に多くの先生方のご指導を頂き、また、仲間並びに家族のお陰だと思っております。

高校入学と同時に剣道を始め、これまで、剣道が出来る環境で長年続けられた事を有難く思っています。今まで、七段を受験するたびに思う

ような結果が出なかったことから、受験及び稽古から遠のいていました。いつも気がかりにはなっていました。ある日、平井先生の一言「そろそろ稽古をしたら。」でした。

稽古は、基本中心でしたがその基本打も思うように体が動かず、また、試合剣道であったためか思うような打突が出来ず、苛立ちが先に経っていました。気が長に指導して頂きました。また、日曜会において実技審査の稽古等をして頂き、更には家族からのアドバイスを受け、五月の受験に向かいました。その際、先生からのアドバイスを頭に入れ「一本勝負」、「打たれない。」更には「無駄打ちをしない。」等を意識して審査に臨んだ結果、合格を頂くことができました。

今後先生方、仲間の皆様方に感謝し、剣道が続けたいと思います。ありがとうございます。今後ともご指導よろしく願います。

剣道七段に合格して 〜一回の稽古を大切に〜



田之上ゆり子
(西三河)

令和四年八月六日、福岡市総合体育

館にて開催された七段審査会で合格頂くことができました。

小学二年の長女の習い事として、地域の剣友会で親子で剣道を始めた事がきっかけとなりました。剣道の基本から丁寧に教えて頂き、様々な稽古会や講習会へ参加し、同じ志を持つたくさんの剣友と出会い、これらは私の財産となっています。

令和二年四月よりコロナ感染緊急事態宣言によって、稽古量が減ってしまい、とても困惑しました。気持ちを切り替えて一回の稽古を大切に、礼法と基本稽古や剣道形に取り組み、審査を意識して稽古してきました。講習会には積極的に参加し、その中でも六・七段講習会で基本稽古の大切さと有効打突の条件を学び、立ち合いは自分勝手にならないようにと教えを受けた事はとても勉強になりました。

審査には、今まで稽古してきたことを見て頂こうという心持で挑みました。一人目は機を観て思いつきり面に打ち抜けましたが、全て上から乗られた気がしました。二人目で頑張ろうと気持ちを入れ直し、一人目と同じように機を観て打って出ました。自分の剣道を変える事なく立ち合いました所、気持ちのいい立ち合いをする事ができました。合格発表で自分の番号を見た時、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

最後に、七段昇段に際して応援してくれた教室の子供達と、ご指導頂きました。

した先生方、先輩方、剣友の皆様から感謝、お礼を申し上げます。これからも剣道の基本を大切に更なる精進に努めたいと思います。

基本の大切さ



白井 雅子
(西三河)

令和四年十一月、名古屋の七段審査会において昇段させて頂きました。日頃からご指導くださる先生方、剣友の皆さん、地元西端剣道クラブの皆さんありがとうございます。そして何より優しく、時には厳しく見守ってくださった家族のお陰と感謝しています。

平成二十二年四月に愛知県で初めて女性の七段が誕生しました。その祝賀会に係員として出席させて頂きました。舞台上の先生方はキラキラと輝いてとても素敵に見えた事を今でも忘れることができません。その先生方を目指して「いつかは自分も。」との思いで、稽古を続けてきました。稽古を続ける中で気付いた事がありました。それは、基本の大切さです。構え・足捌き・振りには段位に見合っているのか？何が正しいのかを考えながら基本技稽古法・

日本剣道形も取り入れた稽古を重ねてきました。また、現在はSNS等で合格者の映像がアップされていますのでそれも参考に所作事・姿勢・攻め方・残心までのイメージを作り審査に臨みました。

今回「さあ七段の修行を始めてよろしい。」と認めていただいたと思っています。これからも精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

基本稽古の大切さ



久保 元子
(尾張)

令和四年十一月、枇杷島体育館にて行われた七段審査会において昇段させて頂きました。当日は遠方からみえる受審者と同じ気持ちになれるよう電車と徒歩で会場に向かいました。夢の七段審査会前に有意義な時間となりました。思い返せば私と剣道との出逢いは障害のある兄がリハビリの為に始めたことからでした。手足が不自由な兄に変わり、形に残したいという思いが合格の原動力の一つになったと思います。二人三脚の兄妹が大切にして

きたのは基本稽古です。面をつけ切り返し後、正確な打ちを確認してから互角稽古に入ることを選び返してきました。六段合格後、コロナの影響で稽古が思うように出来なくなり七段審査は自分にとって無縁なことだと思っておりました。そんな背中を押していたのは道場の先生や剣友そして兄でした。審査を意識するようになってからは少ない稽古時間の中で課題を作り集中して稽古することを心掛けました。日常生活の中でも呼吸法、丹田を意識して身体を動かすことを取り入れてきました。最後に、ご指導をいただいた先生方、剣友、家族に心から感謝を申し上げ、お世話になった一宮市剣道連盟にて自らも精進し正しい剣道を伝える恩返しをしていきたいです。

自己変革と感謝の七段



木村 美紀
(名古屋)

二〇二二年（R四）五月愛知県で行われた剣道昇段審査会にて七段に昇段する事ができました。私の目標の一つでもあった七段、今までご指導して頂いた多くの先生方、一緒に稽古して頂

けた剣友の皆様のお陰と心より感謝しております。

何回七段審査を受審したのかもわからなくなる程不合格を繰り返し、諦めかけていた七段でしたが、先生方のご指導と仲間達の励ましが有り受審&稽古を継続する事ができました。私の最重要変革は「我慢（ため）」でした。打突の準備が整っていないのに焦って打突、届かない、返されるを繰り返していました。気迫のある攻めから打突前の準備をしっかり整え、我慢し捨て身の技に繋げる。この事に重点をおいて稽古を継続しました。合格時会場と一緒に喜んでくれた仲間、携帯電話のメッセージの多さを目の当たりにした時、諦めず続けてきて良かったと思いました。

新七段から真七段になれるようこれからも精進していきたいと思えますのでこれからよろしくお願ひします。

最後に昇段を諦めかけていた時励まして下さった方々に改めて感謝の気持ちをこの場をお借りしてお伝えしたいと思います。

本当にありがとうございました。
(感謝)



剣道・居合道・杖道

令和元年10月1日改定

段・級	審査料(円)	登録料(円)
8 ~ 2 級	1,100	2,200
1 級	1,100	3,300
初 段	2,200	5,500
二 段	3,300	7,700
三 段	4,400	9,900
四 段	5,500	12,100
五 段	6,600	18,700
六 段	13,200	44,000
七 段	15,400	66,000
八 段	19,800	99,000
称 号		
錬 士	19,800	55,000
教 士	27,500	77,000
範 士		105,000

※審査日前日までに、七〇歳になった方は登録料半額。
※四級以上の受審に際し、入会金(終身)五、〇〇〇円を納入して愛知県剣道連盟に加入しなければならない。



愛知県剣道連盟ホームページ案内

現在、各大会及び審査会の要項は、約二ヶ月前には当連盟ホームページに掲載しております。

また大会申込書以外にも、審査会申込書、加盟（入会）手続書がダウンロード出来るようになります。

したので、必要な方は各種要項のページにあります。剣道、居合道、杖道のタブよりご確認ください。

大会結果、審査結果等は出来るだけ早い段階で掲載するよう務めておりますが、多少のお時間を要する場合がございますので何卒ご了承下さい。

<http://www.aichi-kendo.jp/>

なお、全日本剣道連盟主催の大会結果や、審査会（六、七、八段、称号審査会）の合格者につきましては、全剣連ホームページに掲載後、当連盟ホームページに掲載いたします。

全剣連のホームページは当連盟のリンクページ、関連団体タブよりご確認ください。

また岐阜剣連、三重剣連、静岡剣連ホームページへのリンクもしております。

当連盟ホームページへのアクセスは『愛知県剣道連盟』で検索していただくか、上記アドレスを直接入力して下さい。

五地区剣道連盟所在地

尾張剣道連盟 理事長 中川 治彦 事務局長 安田 徹夫
〒491-0903 一宮市八幡 4-1-28 一宮市武道館内 TEL 0586-43-1023 FAX 同じ

名古屋市剣道連盟 理事長 尾野 博之 事務局長 白石 裕章
〒454-0022 名古屋市中川区露橋 1-31-20 富士美ビル 2-G TEL 052-361-8073 FAX 同じ

西三河剣道連盟 理事長 大田 義弘 事務局長 手嶋 道雄
〒471-0813 豊田市野見山町 3-78-14 手嶋様方 TEL 0565-89-3274 FAX 同じ

東三河剣道連盟 理事長 畠山 隆吉 事務局長 夏井 善久
〒441-0211 豊川市御津町河原畑 117 夏井様方 TEL 090-4268-7721 FAX 0533-88-6509

尾南地区剣道連盟 理事長 丹羽 正則 事務局長 高橋 猛敏
〒478-0024 知多市南粕谷 1-20-278 高橋様方 TEL 0569-42-0649 FAX 同じ

中日新聞社

成績の持参またはファックス先は以下の通りです。

◇本社 (名古屋市中区3の丸1ノ6ノ1)
FAX 052(201)4331
問い合わせは 電話 052(221)0793

◇豊橋支局 (豊橋市八町通3ノ91)
FAX 0532(54)4655

◇岡崎支局 (岡崎市東明大寺町16ノ18)
FAX 0564(25)1554

◇豊田支局 (豊田市美山町3ノ34ノ34)
FAX 0565(25)1118

◇一宮支局 (一宮市大江1ノ13ノ13)
FAX 0586(72)5035

◇半田支局 (半田市出口町1ノ45ノ18)
FAX 0569(23)2372

◇春日井支局 (春日井市鳥居松町3ノ60)
FAX 0568(81)2797

読売新聞社

FAX 052(211)1085

取材に来てくれることもありますので、
先ず一報を

編集後記



今回の原稿校正に当たって、各種大会・講習会の報告が多くできるようになり、喜ばしい限りです。コロナ禍はまだまだ予断を許しません。一年の記録誌として内容の充実した「観の眼」を作成できることを願うばかりです。

(広報委員 今泉 弘)

「龍門」の読みが分からなかった。編集委員の方々から、『鬼滅の刃』では「かまど」と読んでいるとのこと。今度見てみよう。

(広報委員 榎本鐘司)

原稿を寄せてくださった皆様に心より御礼申し上げます。コロナ禍でも各団体の方々の元気な姿をお届けできれば嬉しいです。

(広報委員 青山光加)

写真を多く掲載して多くの方にご覧いただけるように心掛けました。読者の皆様が発行を楽しみにお待ち頂けるような広報誌を作成していきたいと思っております。ご意見、ご要望お待ちしております。

(広報委員 森園昭俊)

二期四年、広報委員長を務めさせて頂き大変うございました。コロナ禍で行事中止の中、観の眼の作成、ホームページの刷新等、皆様のご協力により無事役目を終える事ができました。

(広報委員長 内田信之)

訃報

合原 厚先生(享年七十五歳)
令和四年八月十八日ご逝去
剣道教士七段 県連盟元評議員

山本 重夫先生(享年九十四歳)
令和四年六月二十九日ご逝去
剣道教士七段 県連盟相談役

松本 敏男先生(享年九十三歳)
令和四年五月七日ご逝去
剣道教士七段 県連盟元評議員

広報・資料委員

(前列左から)
榎本鐘司、内田信之、青山光加
(後列左から)
森園昭俊、今泉 弘、事務局長 伊藤国博

【資料室所蔵史料紹介】

・昭和二十五年十月二十九日開催

「全日本撓^{しな}競技大会」プログラム紙

・昭和二十五年十月三十日開催

「全国剣道有志交歓試合」プログラム紙

一九五〇（昭和二十五）年二月五日に、〈全日本剣道競技連盟〉の名称で発足したスポーツ剣道の全国組織は、GHQの指示のもと、同年六月二十四・二十五日の静岡県伊東市伊東鉄道集会所での第1回全日本撓競技連盟評議員会において、〈全日本剣道競技連盟〉の名称を破棄し、同年二月五日に〈全日本撓競技連盟〉が発足したとする変更手続きを完了した。この六月の評議員会の時には、すでに「撓競技法」と題された競技規約が成文化されており、評議員会の承認に基づいて「一九五〇年六月全日本撓競技連盟制定競技規約」として施行されることとなった。この規約では、撓競技に用いる「撓」を、竹刀ではなく袋撓とし、外部を白い布地の袋に包み、長さ三尺九寸以内、重さ八十匁以上と定めていた。

一九五〇年十月二十九日、第一回の全日本撓競技大会が名古屋市の名古屋鉄道株式会社講堂で開催された。この時に、一般成年女子の競技をも想定して、より詳しい撓競技規程（「一九五〇年十月改訂 撓競技規程」）が成文化され、ここでは「撓」について、以下のように定められた。

①撓は竹の外部を白の布地の袋で包んだ袋撓を用いる。
②竹は全長の半分より先きを順次に四、八、一六以上に割ってあるものを用いる。

③撓の長さは一・一八米（約三尺九寸）以内、重さ三〇〇瓦（約八〇匁）以上四五〇瓦（一二〇匁）迄とする。

④鏝は直径一五種（約五寸）以内の布製又はゴム製のものとする。但し形は制限しない。

このようにして撓競技の普及活動が始まるが、同時に「学校における撓競技の採用に向けて」の研究が進められ、翌一九五〇（昭和二十六）年五月に『撓

競技 規程の解説と基本』（全日本撓競技連盟編）が発行される。この中に、「学校しない競技」の創成を見すえた「撓」の解説があり、「撓の長さは一・一五米（約三尺八寸）以内、重さ三〇〇瓦（約八〇匁）以上四五〇瓦（一二〇匁）以内とする。」「小手留は直径十種（約三寸）以内の布地又はゴム製のものをを用いる。」などとすることが説明されている。

全日本撓競技連盟の「昭和二十五年事業計画一覽」（尚武堂史料）によれば、九月から十月に全国都道府県で国民体育大会府県予選試合を実施、十一月一・二日に名古屋市で国民体育大会撓競技を実施、そして十一月下旬又は翌年二月に東京で全国撓競技選手権大会を実施するという内容で、全日本撓競技連盟の事業計画が作成されていた。しかし、実際に実施されたのは、一九五〇（昭和二十五）年十月二十九日に名古屋市中村区笹島町の名古屋鉄道株式会社講堂における全日本撓競技大会と、その各府県予選会であった。すなわち、全日本撓競技連盟が目指した、第五回国民体育大会への撓競技の参加は、実現できなかった。

写真資料に示したように、十月二十九日に名古屋で行われた全日本撓競技大会のプログラム紙には「第五回国民体育大会協賛 全日本撓競技大会」 「主催 全日本撓競技連盟」と記されている。撓競技の第五回国民体育大会への参加は実現できなかったが、全日本撓競技連盟の国民体育大会参加への強い想いがここに凝縮されているよう。

この「全日本撓競技大会」のプログラム紙には「競技規程抜粋」が掲載されている。内容を検討すると、これは一九五〇年六月二十四・二十五日の第一回全日本撓競技連盟評議員会で承認された「撓競技法」（一九五〇年六月全日本撓競技連盟制定競技規約）に基づくものであることが分かる。したがって、本大会の撓競技は、「一九五〇年六月全日本撓競技連盟制定競技規約」によって実施されたのである。

大会プログラムの奥付には「本大会に関するご連絡は」として「名古屋市中千種区覚王山通四ノ二モリケンデパート内 愛知県撓競技連盟気付全日本撓競技大会事務局」とある。当時、愛知県撓競技連盟の会長は名古屋鉄道株式会社の土川元夫氏、事務局担当者はモリケンデパート経営者の森武雄氏であり、それぞれ全日本撓競技連盟の副会長と理事という役職にあり、また名古屋鉄道局職員の野々村策一氏が全日本撓競技連盟技術委員という役職にあった。したがって、これらの土川、森、野々村といった人たちが

中心とする愛知県撓競技連盟が総力をあげて本大会の事務・運営に力を尽したといえる。

さて、「全日本撓競技連盟会則」には、「第二條 本連盟は都道府県単位で構成する一般社会人のアマチュア撓競技連盟を以て組織す。参加連盟は届出によって自由に加入脱退することができる。アマチュア規定は日本体育協会アマチュア規程を適用する。」とある。ここで問題となるのは、全日本撓競技連盟の組織においては、

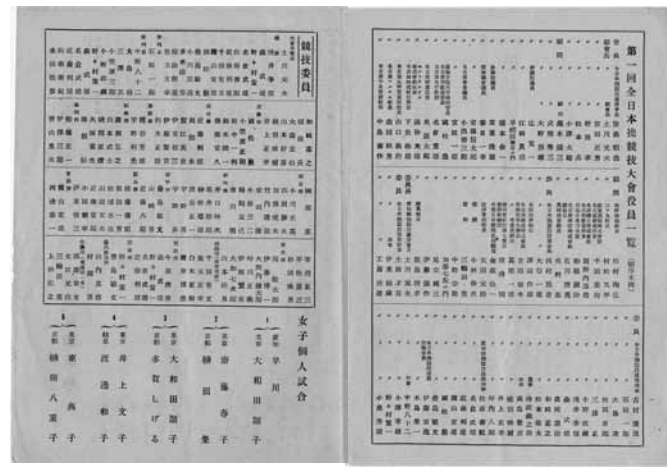
旧来の剣道において存在した専門家、すなわち職業剣道家が連盟の指導者として復活するという道が、閉ざされていることである。これに対して、愛知県の剣道復活の端緒となったジャパニーズフェンシング協会は、発足当初から「段級を三級より十段迄と定め、別に達

人・名人の称号を置き、名人位は終身敬称とし、達人以下は試合の成績より協会に於て之を定め」として、名人位に愛知県在住で戦中・戦前の剣道専門家であった中野宗助・加藤七左衛門・浅井季信・足立純三らを指定した。そして、ジャパニーズフェンシング協会は、中央連盟の組織化と中央連盟の名称変更に合わせて、「愛知県剣道聯合会」↓「愛知県剣道連盟」↓「愛知県撓競技連盟」と名称を変更して行くが、組織としての実体は変わりがなかった。つまり、愛知県撓競技連盟は、中央の全日本撓競技連盟に加入はしたものの、その支部組織ではなく、独自の段位制度と称号を定めて旧職業剣道家たちも糾合して旧来の剣道復活をも念頭において活動する連盟であった、ということである。

愛知県撓競技連盟は、第一回全日本撓競技大会を名古屋鉄道株式会社講堂で開催した翌日、すなわち十月三十日に愛知県撓競技連盟独自で、会場を名古屋市栄町の日活スタジアムに移して、「第五回国民体育大会協賛 全日本剣道有志交歓試合」を、大会会長に土川元夫、副会長に中野宗助・加藤七左衛門・浅井季信・足立純三の名人位四名を配して、撓競技ではなくスポーツ剣道（＝ジャパニーズフェンシング）の方式で大々的に開催したのである。

ここに掲載したのは、そのプログラム紙の全紙面である。紙面の中に懐かしい先生方の名を見つけて、當時を思い出していただければ幸いである。

(文責 榎本鐘司)



各府県別選手名

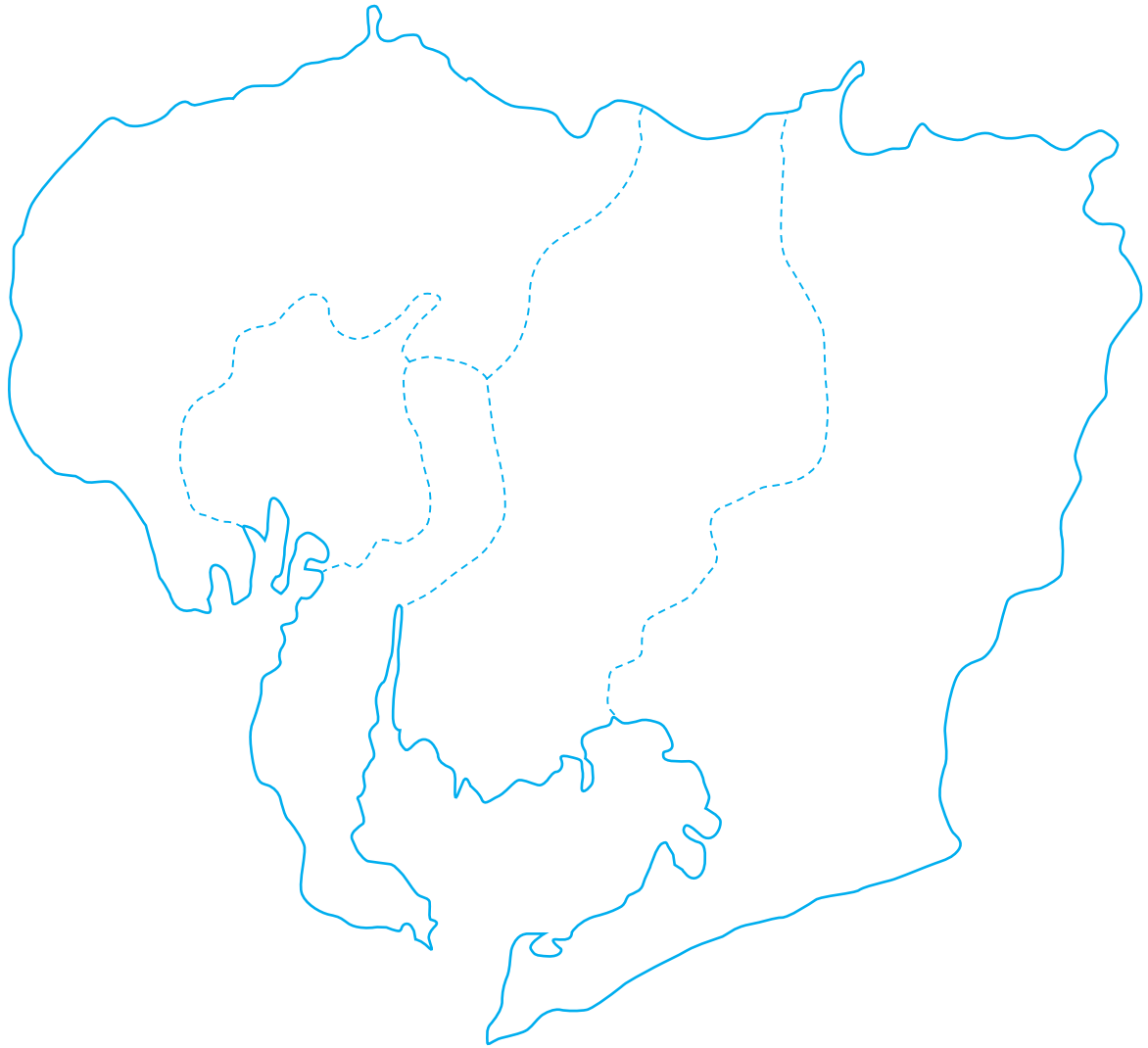
府県	男子	女子
北海道
東北
関東
中部
近畿
中国
四国
九州

団体優勝試合

個人選手権試合

府県	男子	女子
北海道
東北
関東
中部
近畿
中国
四国
九州





広報「観の眼」第四十七号

令和五年七月二十日発行

一般財団法人 **愛知県剣道連盟**

〒453-0035

名古屋市中村区千王町十一番

二十一号

電話 〇五二〇四八一〇〇九三

FAX 〇五二〇四八一〇〇九五

題字・故竹田弘太郎名誉会長